

平成30年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業

介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等
に関する調査研究事業 報告書

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した
介護教員講習会の教育内容等について

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
平成31（2019）年3月

介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した 介護教員講習会の教育内容等について 目 次

I 調査研究の概要	1
1. 調査研究の目的.....	3
2. 実施体制	4
3. 調査研究内容	5
4. 調査研究の経過.....	7
5. 本調査研究の総括と課題	9
II 介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について ...	13
1. 介護教員講習会の概要	15
2. 介護教員講習会における科目の教育内容見直しの観点.....	19
3. 活用にあたっての留意点	20
4. 今回のカリキュラム改正に対応した各科目の教育内容（例）	21
【教育内容（専門基礎分野）に関する講義内容】	21
（1）教育学＜30 時間＞	21
（2）教育方法＜15 時間＞	22
（3）教育心理＜30 時間＞	23
（4）教育評価＜15 時間＞	24
【教育内容（専門分野）に関する講義内容】	25
（5）介護福祉学＜30 時間＞	25
（6）介護教育方法＜30 時間＞	27
（7）学生指導・カウンセリング＜15 時間＞	28
（8）実習指導方法＜15 時間＞	29
（9）介護過程の展開方法＜15 時間＞	30
（10）コミュニケーション技術＜15 時間＞	32
（11）研究方法＜30 時間＞	33

資 料.....	35
1 介護教員講習会科目別アンケート調査結果	37
(1) 調査概要	38
(2) 受講生の基本属性	38
(3) 受講生の教員属性	39
(4) 講習の満足度について	39
(5) 講習への意見_良かったところ	40
(6) 講習への意見_改善してほしいところ	42
2 介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査結果.....	45
1 調査概要	46
2 回答者の基本属性.....	47
(1) 実施主体、回答者の性別・年齢・担当の年度、現在の職名	47
(2) 回答者自身の介護教員講習会受講経験	48
(3) 「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」の認知状況....	48
(4) 担当した科目名、これまでの担当年数	49
3 講習会の目的・目標等の理解・共有	50
(1) 運営・マネジメントの体制	50
(2) 科目の目標・教育内容・留意点等の理解に基づく担当科目の講義・演習	50
4 他科目（他教員）との連携	51
(1) 他科目（他教員）の介護教員講習会のシラバスについて	51
(2) 他科目（他教員）の介護教員講習会の聴講経験.....	51
(3) 他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習	51
(4) 他科目との関わりを意識した講義・演習とするための課題、留意点、工夫点	52
(5) 複数の教員で担当する講義・演習における打ち合わせや連絡調整.....	54
(6) 複数の教員で担当する講義・演習に関する課題、留意点、工夫点、今後のあり方	54
5 授業評価の体制.....	56
(1) 授業評価の教員へのフィードバックの有無	56
(2) 授業評価のフィードバックや結果反映に関する課題、留意点、工夫点	57
6 担当科目において意識・工夫していること、課題.....	59
(1) 使用するテキストや資料について、意識していること、工夫していること ..	59
(2) 教授方法や講義・演習の進め方等において、意識していること、工夫していること ..	62
(3) 担当科目において、困ったことや対応に苦慮すること	64
(4) 担当科目の開講にあたって、特に意識していること、工夫していること	66
7 介護教員講習会の改善に向けた意見	68
(1) 受講生のニーズや特性に応じた内容等	68
(2) 受講生のニーズ等に応じた内容等になっていないと考える理由、今後のあり方.....	69

(3) 全体の時間数(300 時間)について.....	70
(4) 講義・演習の時間配分(各科目の時間数)について.....	71
(5) 講習会の授業スケジュール(時間割)について.....	73
(6) カリキュラム構成について	74
(7) 現在の実施・運営体制について	75
(8) 介護教員講習会をよりよくするためのご意見等.....	76
8 介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査 調査票	80



調査研究の概要

1. 調査研究の目的

平成 19 (2007) 年 12 月に社会福祉士及び介護福祉士法 (昭和 62 年法律第 30 号) の一部が改正され、平成 21 (2009) 年度から新たなカリキュラムによる教育課程が実施されるとともに、教員要件等についても「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」(昭和 62 年厚生省令第 50 号) 及び「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」(平成 20 年文部科学省、厚生労働省令第 2 号) (以下、「両規則」という。) の改正又は制定が行われ、両規則において、介護福祉士養成施設等において専任教員になろうとする者等は、専任教員として必要な知識及び技能を習得させるために行う講習会であって厚生労働大臣等が定める基準を満たしたものとしてあらかじめ厚生労働大臣に届け出られたもの (以下、「介護教員講習会」という。) を修了した者等と規定された。

介護教員講習会は、両規則に対応し、介護福祉士養成施設における専任教員の資質の向上を図り、もって質の高い介護福祉士を養成することを目的とするものである。

介護教員講習会も 10 年が経過し、この間、介護福祉士養成施設を取り巻く環境は大きく変化した。介護人材不足を背景に介護福祉士養成の重要性が再認識される一方で、養成施設入学者数は減少傾向にある。また養成施設卒業者に対しては国家試験が義務化され、養成施設を卒業して介護福祉士国家資格を取得した留学生に対しては、国内で介護福祉士として介護または介護の指導を行う業務に従事することを可能とする在留資格「介護」が創設された (「出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律」(平成 28 年法律第 88 号) 公布)。

介護教員講習会受講生についても、受講者層や受講生の意識の変化が指摘されているとともに、2019 年度からは、介護福祉士養成課程において新たなカリキュラムが順次取り入れられることとなっており、介護教員にはカリキュラム改正を踏まえた教授の視点や力が求められることとなる。

こうした状況を鑑み、介護教員講習会についても、「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」(平成 21 (2009) 年 12 月 13 日、日本介護福祉士養成施設協会 (介護教員講習会の講義内容見直しに関する小委員会)) をもとに、目標、講義内容の見直しを行うとともに、講義において踏まえるべき、あるいは留意すべき点をより具体的に示すよう検討を行うとともに、介護教員講習会の枠組みそのものについて今後のあり方等を提言することを目的に、本調査研究を実施した。

2. 実施体制

新カリキュラムのねらいや目的・留意点を踏まえ、当該事業を行うために、有識者や現場の実践者等による検討委員会を設置した。

また、調査研究を効果的に行うために介護教員講習会の見直し作業部会を設置した。

検討委員会

委員氏名	所属
秋山 昌江	聖カトリック大学
石本 淳也	公益社団法人日本介護福祉士会
井上 善行	日本赤十字秋田短期大学
○上原 千寿子	広島国際大学
荏原 順子	目白大学
遠藤 英俊	国立長寿医療研究センター
川井 太加子	桃山学院大学
杉原 優子	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ
高岡 理恵	華頂短期大学
東海林 初枝	聖和学園短期大学
本名 靖	東洋大学
八木 裕子	東洋大学

○：委員長

(50 音順・敬称略)

オブザーバー

伊藤 優子	厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-------	---

介護教員講習会の見直し作業部会

委員氏名	所属
浅野 幸子	公益社団法人大阪介護福祉士会
○上原 千寿子	広島国際大学
坂本 毅啓	北九州市立大学
志水 幸	北海道医療大学
白井 孝子	東京福祉専門学校
峯尾 武巳	特定非営利活動法人 介護の会まつなみ
八木 裕子	東洋大学

○：作業部会長

(50 音順・敬称略)

3. 調査研究内容

(1) 介護教員講習会における科目の教育内容等に関する見直し

「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」（平成 21（2009）年 12 月 13 日、日本介護福祉士養成施設協会「介護教員講習会の講義内容見直しに関する小委員会で作成」）をもとに、目標、講義内容の見直しを行うとともに、より具体的に講義の意図・内容・教授方法、ポイント等がわかるように新たに留意点を明記した。

同時に、講習会実施方法、科目構成、時間数、授業スケジュール（流れ）、実施・運営体制等についても課題を抽出し、今後のあり方や見直すべき事項等についてまとめを行った。

(2) 検討の資料となる基礎データ収集のための調査の実施

介護教員講習会における科目の教育内容等に関する見直しの基礎資料とするため、以下の 2 つの調査を実施した。

調査結果は、資料編に掲載している。

①介護教員講習会科目別アンケート調査（実施概要）

調査対象	・日本介護福祉士養成施設協会が実施している介護教員講習会の平成 28～29（2016～2017）年度受講生 ・東京会場、広島会場どちらの受講生も対象とした
調査方法	・講習会実施後に実施した「介護教員講習会科目別アンケート」の集計 ・無記名式
集計対象数	・1,584 票

②介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査(実施概要)

調査対象 及び 回収状況	・平成 28～29（2016～2017）年度において、下記 4 団体が実施主体である介護教員講習会講師経験者 79 名を対象とした <table><tr><th>対 象</th><th>対象数</th><th>回収数</th><th>回収率</th></tr><tr><td>日本介護福祉士養成施設協会</td><td>32 名</td><td>22 名</td><td>68.8%</td></tr><tr><td>神奈川県立保健福祉大学</td><td>20 名</td><td>7 名</td><td>35.0%</td></tr><tr><td>臨床福祉専門学校</td><td>9 名</td><td>5 名</td><td>55.6%</td></tr><tr><td>大阪介護福祉士会</td><td>18 名</td><td>10 名</td><td>55.6%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>79 名</td><td>44 名</td><td>55.7%</td></tr></table>	対 象	対象数	回収数	回収率	日本介護福祉士養成施設協会	32 名	22 名	68.8%	神奈川県立保健福祉大学	20 名	7 名	35.0%	臨床福祉専門学校	9 名	5 名	55.6%	大阪介護福祉士会	18 名	10 名	55.6%	合 計	79 名	44 名	55.7%
対 象	対象数	回収数	回収率																						
日本介護福祉士養成施設協会	32 名	22 名	68.8%																						
神奈川県立保健福祉大学	20 名	7 名	35.0%																						
臨床福祉専門学校	9 名	5 名	55.6%																						
大阪介護福祉士会	18 名	10 名	55.6%																						
合 計	79 名	44 名	55.7%																						
調査方法	・対象者本人に対する郵送配付・郵送回収を基本とするが、該当団体担当者を通じての配付・回収も実施した ・無記名式																								
調査期間	・平成 30（2018）年 10 月 4 日～10 月 20 日 ・ただし、締切後も可能な範囲で集計対象とした																								

4. 調査研究の経過

介護教員講習会の見直し作業部会打ち合わせ会

日 時	平成30年7月30日（月）15:00～17:00
場 所	商工会館 8階・A会議室
議 事	(1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究委員会」介護教員講習会の見直し作業部会について (2) アンケート調査について (3) その他

第1回 全体会議

日 時	平成30年8月14日（火）15:00～17:00
場 所	東京ガーデンパレス 2階・橘
議 事	(1) 「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研委員会」について (2) 「手引き作成作業部会」について (3) 「介護教員講習会の見直し作業部会」について (4) 「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業」について (5) その他

介護教員講習会の見直し作業部会打ち合わせ会

日 時	平成30年11月17日（土）12:30～13:30
場 所	アルカディア市ヶ谷 2階・フォッセ
議 事	(1) 作業部会の進行管理について (2) 本日の作業部会の進行について (3) 事前実施のアンケート調査の概要について

第1回 介護教員講習会の見直し作業部会

日 時	平成30年11月17日（土）13：30～15：30
場 所	アルカディア市ヶ谷 5階・赤城
議 事	（1）「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研委員会」について （2）「介護教員講習会の見直し作業部会」について （3）その他

第2回 介護教員講習会の見直し作業部会

日 時	平成30年12月23日（日）13：30～15：30
場 所	アルカディア市ヶ谷 3階・高尾
議 事	（1）介護教員講習会の科目の内容、留意点の見直しについて （2）その他

第2回 全体会議

日 時	平成31年1月20日（日）13：30～15：30
場 所	アルカディア市ヶ谷 5階・赤城
議 事	（2）「手引き作成作業部会」について （3）「介護教員講習会の見直し作業部会」について （4）その他

第3回 全体会議

日 時	平成31年2月25日（月）15：00～10～17：00
場 所	商工会館 7階・BC会議室
議 事	（1）「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研委員会」について （2）「手引き作成作業部会」について （3）「介護教員講習会の見直し作業部会」について （4）その他

第3回 介護教員講習会の見直し作業部会

日 時	平成31年3月17日（日） 13：30～15：30
場 所	アルカディ市ヶ谷 7階・吉野
議 事	(1) 報告書の構成について (2) 介護教員講習会の科目の内容、留意点の見直しについて (3) その他

5. 本調査研究の総括と課題

(1) 介護教員講習会の歩みから

昭和62(1987)年6月の「社会福祉士及び介護福祉士法」の成立に伴い、昭和63(1988)年4月から介護福祉士養成教育が開始された。介護福祉士養成施設数の増加に伴い、教員養成が喫緊の課題となり、平成13(2001)年に、日本介護福祉士養成施設協会（以下、「介養協」という。）の試みとして介護系教員現任研修会が実施された。また、厚生省も、質の高い介護福祉士養成を行うため、介護教員の資質の向上を目的に、介護福祉士養成施設の専任介護教員への介護教員講習会の受講を義務付けた。

当初、受講については、初任者のみとされていたが、最終的には介護福祉士養成施設の専任教員を対象として、平成14(2002)年度より、全国社会福祉協議会中央福祉学院の他、介養協の全国7ブロックで介護教員講習会が開催された。当該講習会が、初任者研修や実務者研修の講師要件にも該当したことから、その他の団体でも開催されるようになった。また、神奈川県立保健福祉大学のように独自のコースで通年開講している養成校もある。

平成21(2009)年のカリキュラム改正時には、介護福祉士養成カリキュラムが大きく見直されたこともあり、介養協に「介護教員講習会の講義内容見直しに関する小委員会」を設置するとともに、「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」を作成し、新たな教育に対応する目標と講義内容を示した。

また、平成22(2010)年度には「介護教員のあり方に関する基礎研究」（厚生労働省の社会福祉推進事業）が行われ、介護教員講習会の現状や問題提起が行われている。入学生の減少が続く一方で、学生の多様化への対応や介護教員講習会の受講者層の変化など、今後の介護教員講習会のあり方が課題となっている。

（２）本調査研究の総括と課題

①教育未経験者や教育歴 1 年未満の教員が増加したことへの対応

介護教員講習会の現状を把握するため、平成 28～29（2016～2017）年度、二会場で行われた科目別の受講生アンケートと、介護教員講習会講師へのアンケートを分析した。

二会場に共通するのは、教員未経験者と教員経験 1 年未満の受講生が増えているという点である。

新人教員であっても教員経験があると、学生の様子や教育場面での課題もイメージができるが、近年は教員の採用条件に介護教員講習会修了が義務付けられたこともあり、教育経験のない受講生が増加したことや、必ずしも養成施設の教員を目指している受講生だけではなくなっている。また、受講者自身の教育歴や実務経験も多様である。

介護教員講習会について、「受講してよかった」という回答が 8 割を占めるものの、「専門的すぎる、難しい、理解できない」という回答も年々増えている。その一方で、大学院修了者や大学教員からは「レベルが低い」という意見もあり、「専門分野や学歴・教育歴によってクラス分けをしてほしい」という意見も出ている。

今後の介護教員講習会は、教育歴や実務経験等、様々な受講者層がいることを踏まえた上で、介護福祉士養成教育に携わるための教員研修として、どのような内容のものを、どのように提供するかを示すことが必要である。本調査で、教育内容の見直しに加え、留意点を示したことも、この点を意図したものである。しかし、これについては、さらに教育内容や時間を丁寧に見直す必要が課題として残された。

また、介護教員講習会が介護福祉士養成教育に携わるための研修（初任者としての研修）であるならば、その後のフォローアップ研修を検討することも今後の課題であるといえる。

②教育プログラムの例示の必要性

すでに他領域の教員として実績がある場合は、基礎分野・専門基礎分野については履修の免除があるが、専門分野の免除は原則的には行われていない。これは学際的で実践的な学問領域としての介護福祉教育の独自性と専門性の理解が必要とされているからである。

専門分野の科目は、「介護福祉学」「介護教育方法」「学生指導・カウンセリング」「実習指導方法」「介護過程の展開方法」「コミュニケーション技術」「研究方法」の 300 時間で構成されている。各科目について目標が示されているが、その内容は現

状として講師に委ねられており、講師によって教育内容の違いが大きいことがアンケートの結果からわかった。

例えば、「研究方法」の科目の目標は、「研究の意味を理解し、研究の方法と種類、進め方等を習得する」と示されているが、受講生の教育歴や教員経験によって、求めるものに乖離がある。新人教員の増加の中で、この科目をどのような内容で展開するかについては検討が必要であるといえる。

③介護教員講習会のプログラムの検討とコーディネーターの必要性

介護教員講習会の教育内容と合わせて、履修プログラムの順次性についても検討が必要である。まずは「介護福祉学」を受講することで、介護そのものを理解し、介護福祉士養成教育の目指すものが理解できる。また「介護過程の展開方法」と「研究方法」はその前提に、他の科目の学びの積み重ねが必要な科目である。履修の順番は、会場や講師の都合もあるだろうが、体系的な教育プログラムが必要であるという点では、介護福祉士養成教育と同様である。

介護教員講習会は、担当する科目の内容のみではなく、介護福祉士養成教育に携わる教員が、養成教育の全体像を理解することによって、介護教員の質、ひいては介護福祉士養成教育の向上を図るものである。その点を考えると、先にも述べたようにプログラムの順次性や科目間の連携が必要となる。

また、介護教員講習会の実施要領に、「講習会の実施に当たっては、科目ごとの教育内容について一貫性および統一性が確保され、効果的な授業の運営が行われるように配慮すること」とされている。教育内容の検討や科目間の連携、調整等を行うことが求められており、そのためには、全体を統括できる、コーディネーターの役割を果たす人を配置することが必要である。受講生にとっても、講習全体を統括し、受講生をサポートできるコーディネーター的な存在がいることは学習支援を行う上で効果的であるといえる。

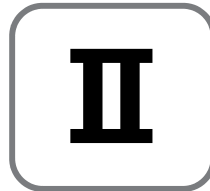
④介護教員講習会の存在意義と主体的な参加の重要性

介護教員講習会は、講習を担当する講師から学びを得るだけでなく、受講生自身が担当する分野や、介護現場での実践と教育実践の経験を交流し、今後の教育課題・研究課題を共有することにも意味がある。

今回のカリキュラム改正で、新たに付け加えられたものとして「チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充」がある。これについて教員は、介護福祉士を目指す学生に、あらゆる場面で教授し体験させていかねばならない。

講習を担当する講師が受講生の状況を理解しながら研修を行うことは当然のことであるが、受講生である教員自らがメンバーの中での自身の役割を自覚し、主体的に講習会に参加するということが求められている。

わずか 300 時間の介護教員講習会をどのような場として活用し、何を得るかは、受講生の主体的な参加姿勢に比例する。それに応えるために、準備する側も、常に最新の情報や事例等を用いて講習を展開することが必要である。



**介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した
介護教員講習会の教育内容等について**

1. 介護教員講習会の概要

(1) 目的

平成 19 (2007) 年 12 月に社会福祉士及び介護福祉士法 (昭和 62 年法律第 30 号) の一部が改正され、平成 21 (2009) 年度から新たなカリキュラムによる教育課程が実施されるとともに、教員要件等についても「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」(昭和 62 年厚生省令第 50 号) 及び「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」(平成 20 年文部科学省、厚生労働省令第 2 号) (以下、「両規則」という。) の改正又は制定が行われ、両規則において、介護福祉士養成施設等において専任教員になろうとする者等は、専任教員として必要な知識及び技能を習得させるために行う講習会であって厚生労働大臣等が定める基準を満たしたものとしてあらかじめ厚生労働大臣に届け出られたもの (以下、「介護教員講習会」という。) を修了した者等と規定された。

介護教員講習会は、両規則に対応し、介護福祉士養成施設における専任教員の資質の向上を図り、もって質の高い介護福祉士を養成することを目的とするものである。

(2) 実施主体

- ・ 介護教員講習会の実施主体は、「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」第五条第六号及び「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」第五条第六号に規定する厚生労働大臣が別に定める基準 (平成 13 年厚生労働省告示第 241 号。) に基づき、次表に定めるすべての科目について講習を行うことができる法人であって、同表に定める内容以上の講習会を適切に行うことができるものとする。
- ・ 介護教員講習会の実施者は、講習会の実施前に、当該講習会を実施する都道府県を所管する地方厚生 (支) 局長へ届出書を届け出ること。

(3) 科目の内容と構成

- ・ 介護教員講習会の具体的な内容は、次表の内容以上とすること。
- ・ また、講習会の実施者がこれらの内容すべてを実施する必要があること。

科目の内容と構成

分野		科目	時間数
基礎分野	介護福祉の基盤強化	社会福祉学、生活学、人間関係論、心理学、哲学、倫理学、法学のうちいずれか2科目	各30計60
専門基礎分野	教育の基盤	教育学、教育方法、教育心理及び教育評価の4科目すべて	計90
専門分野	介護福祉学	介護福祉学	30
	介護教育方法	介護教育方法	30
	学生指導	学生指導・カウンセリング	15
		実習指導方法	15
	介護教育演習	介護過程の展開方法	15
		コミュニケーション技術	15
	研究	研究方法	30
			計150
			合 計 300

なお、専門分野の各科目に係る目標は次表のとおりであるので、具体的な教育内容の検討に当たっては、これらに十分留意すること。

専門分野の各科目に係る目標

科目	目 標
介護福祉学	介護及び関連する学問領域から幅広く、介護と人間生活について学び、介護福祉士の専門性についての理解を深める。
介護教育方法	教育方法の理論を基礎として、介護福祉教育における具体的な教授・学習活動について理解する。
学生指導・カウンセリング	学生指導・カウンセリングの理論や方法について学ぶ。
実習指導方法	介護教育における実習の意義及び実習指導に当たる教員・実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導方法を修得する。
介護過程の展開方法	介護実践のためのアセスメント、計画立案、実施、評価について、演習における具体的展開方法を学ぶ。
コミュニケーション技術	人間関係におけるコミュニケーション技術について学ぶ。
研究方法	研究の意味を理解し、研究の方法と種類、進め方等を習得する。

(4) 講師

- ・介護教員講習会の講師は、次のいずれかに該当する者であることが望ましい。
 - ①学校教育法に基づく大学、大学院又は短期大学の教授、准教授、助教又は講師として5年以上の教歴を有する者
 - ②介護福祉士養成施設又は介護福祉士学校において5年以上の教務主任歴を有する者
- ・介護教員講習会には、基礎分野、専門基礎分野及び専門分野の全般にわたる教育内容の編成の総合調整や講習会実施後の教育内容の評価を適切に行う能力を有する教育内容編成主任を置くこと。なお、教育内容編成主任は、①に該当する者であることが望ましい。

(5) 受講生

- ・講習会修了後に、以下の①～③を目指す者または④に該当する者。
 - ①介護福祉士養成施設における専任教員であって、養成施設指定規則別表第4及び学校指定規則別表第4（以下、「両規則別表第4」という。）の領域の欄のすべての区分における教育課程の編成等の教務に関する主任者
 - ②専任教員であって、両規則別表第4の領域「介護」の科目を教授する者
 - ③専任教員であって、両規則別表第4の領域「介護」以外の科目を教授する者で、各領域において科目の編成、授業の運営等についての責任を有する者
 - ④介護福祉士又は看護師、保健師、助産師、医師もしくは社会福祉士の資格を取得した後、5年以上実務に従事して介護教員を目指す者

(5) 履修の免除等

- ・履修認定について、基準告示に基づく「介護教員講習会修了証」の交付を受けるためには、13科目300時間の受講が必須である。ただし、次に該当する場合は、科目の履修認定（受講免除）を受けることができる。
 - ①基礎分野及び専門基礎分野の当該科目の履修を免除
大学、大学院、短期大学等において、基礎分野及び専門基礎分野に係る科目の

内容と同等以上の内容を有すると認められる科目を修めた者（別紙「介護教員講習会の教育内容に相当する放送大学授業科目（平成 30（2018）年度）」を含む）

②基礎分野及び専門基礎分野履修を免除

厚生労働省が認定した「看護教員養成講習会」受講修了者

③専門分野のうち「介護教育方法」の履修を免除

全国社会福祉協議会中央福祉学院の「介護福祉士養成施設介護担当教員特別研修課程」受講修了者

参考資料として以下をもとに作成

-
- ・社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則第五条第六号及び社会福祉士介護福祉士学校指定規則第五条第六号に規定する厚生労働大臣が別に定める基準(平成十三年七月十三日)(厚生労働省告示第二百四十一号)
 - ・介護教員講習会実施要領（平成 20 年 11 月 11 日社援発第 1111002 号）

2. 介護教員講習会における科目の教育内容見直しの観点

今回の介護福祉士養成課程のカリキュラム改正では、求められる介護福祉士像が新たに示され、以下の5点から、教育内容の見直しが行われた。

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う



高い倫理性の保持

5つの教育内容の見直し

- ①チームマネジメントを養うための教育内容の拡充
- ②対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③介護過程の実践力の向上
- ④認知症ケアの実践力の向上
- ⑤介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

これは平成29（2017）年にまとめられた『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』（社会保障審議会福祉部会人材確保委員会報告書）の中で、教育内容の見直しに関わる部分について、「介護福祉の専門職として、介護職の中で中核的な役割を果たし、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加等に伴い、介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる介護福祉士を養成する必要がある」とされたことがその背景にあることは言うまでもない。

このカリキュラム改正に伴って、介護教員講習会の内容の見直しの議論があり、今回は、教育内容の例を提示することとした。

3. 活用にあたっての留意点

本報告書にある教育内容の例は、介護協が平成 21（2009）年に作成した「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」に、今回のカリキュラム改正の観点を加えたものである。カリキュラム改正の内容については、介護協で『介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き』（※介護協のホームページからダウンロード可能）を作成しているので、介護教員講習会を実施する際は活用いただきたい。

介護教員講習会が開催された当時、「介護過程」は介護福祉士養成課程の科目として取り上げられていなかったが、平成 19（2007）年のカリキュラム改正で科目として、150 時間教授することになった。さらに、今回のカリキュラム改正で、「介護過程の実践力の向上」が重視されていることを鑑みると、介護教員講習会でも「介護過程」に関する教育時間を増やし教授内容の充実を図ることが必要である。

そこで、「介護過程の展開方法」については、30 時間の教育内容も示した。介護教員講習会の内容や時間数は、平成 13（2001）年厚生労働省告示第 24 号によって定められているが、時間数についてはあくまでもそれ以上という考え方であることから、ぜひ検討いただきたい。

議論の過程では、専門分野を 300 時間の枠に収めるならば、時間の枠組みそのものの変更の必要性についても意見が出されたことも記しておきたい。

その場合、介護福祉学を 30 時間から 15 時間として調整する案も示したが、この科目は介護福祉士の専門性について理解を深める科目であることや、今回新たに示された「介護実践を支えるチームマネジメント」や、「対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上」を介護福祉士教育の中に織り込んでいくことを考えると、当該科目もさらに検討を要する課題だと考えている。

なお、基礎分野に関しては「介護福祉の基盤強化」という教養科目的位置づけであり、領域も幅広いので特にここでは取りあげてはいない。各実施団体での特色ある講習を期待したい。

4. 今回のカリキュラム改正に対応した各科目の教育内容（例）

【教育内容（専門基礎分野）に関する講義内容】

（1）教育学＜30 時間＞

【目標】

教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等のかかわりについて理解するとともに、教育の思想や歴史、制度、実践等教育に関する基礎的な理論について理解する。さらに、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性	・教育の意義、教育の目的、乳幼児期の教育の特性、教育と子ども家庭福祉等との関連性、人間形成と家庭・地域・社会等との関連性などについて説明する。
2. 教育の思想と歴史的変遷	・諸外国の教育の思想と歴史、日本の教育の思想と歴史、子ども観と教育観の変遷などについて説明する。
3. 教育の制度	・教育制度の基礎、教育法規・教育行政の基礎、諸外国の教育制度などについて説明する。
4. 教育の実践	・教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）、教育実践の多様な取り組みなどについて説明する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題	・生涯学習社会と教育、現代の教育課題などについて説明する。

（２）教育方法＜15 時間＞

【目標】

これからの社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、学んだことを現場教育にいかす態度と具体的な方法を身に付ける。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.教育方法の基礎的理論と実践の歴史	・教育方法の基礎的理論と実践の歴史について説明する。
2.これからの教育方法のあり方	・アクティブラーニング等、最新の教育方法について説明する。
3.教育方法の原理と実践技術（教授方法・教材研究・授業研究）	・実践技術についての具体的事例を取り上げる。
4.授業の目標と授業展開のあり方	・目標、内容、教材・教具、授業展開、学習形態等について説明する。
5.情報機器を活用した指導法と適切な教材の作成・活用の仕方	・タブレット、PCなどの情報機器を活用した効果的な授業並びに適切な教材の作成及び活用に関する基礎的な事項について説明する。
6.具体的な指導案の書き方・作成	・基礎的な学習指導理論、授業展開のあり方を踏まえた学習指導案作成の演習を行う。

（３）教育心理＜30 時間＞

【目標】

学生の多様化に伴い、教育心理学視点からの学生理解、学習の仕組みと学習の方法及び青年期の心理臨床的問題への支援について学ぶ。また、自身のメンタルヘルスについても考えていく。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.教育心理学の理論と方法	・教育心理学の考え方について説明する。
2.教育と発達（青年期を中心に）	・青年期を中心とした精神的発達と課題について説明する。
3.学習の仕組みと学習の方法（知識・理解、思考・判断、表現・技能）	・学習の仕組みと学習の方法を取り上げ、授業方法について検討する。
4.学ぶ意欲	・動機づけ理論について説明する。
5.青年期の心理臨床的問題と支援（発達障害、うつ、パーソナリティー障害、PTSD、不登校、ひきこもり、自死他）	・青年期の心理臨床的問題と支援について、事例を交えながら説明する。
6.教師のメンタルヘルス	・メンタルヘルスについて自身の生活のあり方や組織としての取り組みから考察する。

（４）教育評価＜15 時間＞

【目標】

教育評価の概要（意義・目的等）や教育評価・学習評価の方法、統計を用いた教育評価の基礎等について理解し、学んだことを現場教育にいかす態度と具体的な方法を身に付ける。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.教育評価の意義と役割	・育成を目指す資質・能力及び学習評価の基礎的な考え方について説明する。
2.教育評価の視点と評価の方法	・多様な評価方法として、パフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価について説明する。
3.学習評価の方法と留意点	・具体的事例を活用して、実際に評価する演習を行う。
4.具体的な評価基準・評価規準の作成	・具体的な評価基準・評価規準を作成する演習を行う。

【教育内容（専門分野）に関する講義内容】

（５）介護福祉学＜30 時間＞

【目標】

現代の介護問題と介護福祉士の存在意義を確認し、その社会的背景も視野に入れながら、求められる介護福祉士像と介護福祉士教育の歴史を踏まえ、今日の介護福祉士教育の目指すべき内容や課題を理解し、介護福祉学構築に向けての礎とする。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.現代の介護問題と介護福祉士の存在意義	・産業構造の変化によるサラリーマン社会の家族・生活・地域の変化とそれによる子育てや介護の手の縮小、一方、高齢社会の進展の中での老々介護に対応し、介護の社会的な手として生まれてきた介護福祉士の存在意義について説明する。
2.時代が求める介護福祉士像と介護福祉士養成教育の変遷	
（１）社会福祉分野からの問題提起	・社会福祉現場で提供されてきた介護の歴史を踏まえ、日本介護福祉学会の出発点ともいえる昭和62（1987）年に日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会報告「社会福祉におけるケアワーカー（介護職員）の専門性と資格制度について（意見）」について説明する。
（２）社会福祉士及び介護福祉士法成立と介護福祉士養成教育	・社会福祉士及び介護福祉士法成立の下で、昭和63（1988）年4月から開始された初期の介護福祉士養成教育の目的や特徴について説明する。
（３）介護保険と介護福祉士養成教育	・介護保険導入の背景とその理念を押さえつつ、介護保険導入時に改訂された介護福祉士養成教育の変更点について説明する。
（４）「2015 年の高齢者介護」の下での、介護福祉士のあり方と養成プロセスの見直し	・初めての介護保険見直しでまとめられた「2015 年の高齢者介護」での問題提起と、これを根拠に再検討された介護福祉士像と養成プロセスの見直しの内容について説明する。

(5) 2025 年に向けた介護人材の確保と介護福祉士養成教育	・平成 27 (2015) 年 2 月「2025 年に向けた介護人材の確保～量と質の好循環の確立に向けて」から、平成 28 (2016) 年 6 月「ニッポン一億総活躍プラン」第 3 の矢「介護離職ゼロの実現」、その具体的な施策 9 の「地域共生社会」の第 3 テーマ「専門人材養成の見直し」に向けての動きと、平成 29 (2017) 年の新たな介護福祉士像と介護福祉士養成改正カリキュラムの特徴について説明する。
3. 介護福祉士の生活支援を支える人権・福祉理念	・社会の発展と人権思想の潮流を踏まえつつ、社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷が、人間の尊厳と自立を支える生活支援をどのように変化させてきたのかについて説明する。
4. ヒューマンサービスとしての介護福祉士の専門性と倫理性	・ヒューマンサービスの特徴と、それ故に求められる介護の専門性と倫理性を考える。「介護の倫理」と「職業倫理」「生命倫理」との関連を押さえながら、それをできるだけ実践的に確認する。
5. 介護実践を支えるチームマネジメントと多職種連携・協働	・介護実践を支えるチームマネジメントを、①ケアを展開するためのチームマネジメント、②人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント、③組織の目標達成のためのチームマネジメントがあり、それが相互に関連し合うことについて説明する。
6. 地域を意識した生活支援の展開と地域包括ケア	・地域包括研究会の問題提起の変遷を確認しながら、地域包括ケアシステムの深化・推進を目指す平成 29 (2017) 年報告「2040 年にむけた挑戦」を踏まえ、今後の介護福祉士の立ち位置や果たすべき役割について説明する。

※この科目では現時点で基本的に押さえておいてほしいことがあるので具体的に内容を提示した。

※ここでは、300 時間を変更せず、今回のカリキュラム改正で重視される介護過程の展開方法を 15 時間から 30 時間にした場合、介護福祉学を 15 時間に抑えた場合の柱を提示した。

1. ⇒2 時間、2. ⇒4 時間、3. ⇒3 時間、4. ⇒3 時間、5. ⇒1.5 時間 6. ⇒1.5 時間

※30 時間にした場合は、1 日 6 時間×5 日として

1. ⇒2 時間
2. ⇒4 時間
3. ⇒6 時間：人権・福祉理念を踏まえた生活支援を、実践場面で丁寧に考えることができる。さらに介護過程の展開方法が 15 時間となれば、介護過程の展開方法に移した部分を取り上げる。
4. ⇒6 時間（演習含む）：倫理をより実践的に教える演習や、人権尊重と権利擁護まで含めると 2 日間でも組める。当事者の側からの問題提起があると、より効果的に展開できる。
5. ⇒3～6 時間：介護過程の展開もケアを展開するためのチームマネジメントであることも確認しつつ、様々な場面・段階での演習が組める。
6. ⇒3～6 時間：介護福祉士教育の中で地域での生活は常に意識して取り組まれてきたはずであり、それを再確認しながら、改めて介護福祉士の専門性や、介護福祉士教育のあり方、また介護福祉士養成施設の地域における役割の果たし方を考え合う場とする。

（６）介護教育方法＜30 時間＞

【目標】

各領域の目的、教育に含むべき事項、留意点等を理解し、介護教育の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえて授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。特に生活支援技術の教育体系の全体像を理解し、模擬授業を実施することで、介護の領域での各科目の関係性や、さらに３領域の関連性も確認する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.介護教育の全体構造	・カリキュラムの全体像を踏まえ、教育の内容の関連性や各科目における評価のあり方に留意する。
2.教材研究の方法（「教育に含むべき事項」と背景となる学問領域の理解）	・隣接諸科学の最新の知見と、当該科目の教育に含むべき事項の関連に留意し、教材研究を行う。
3.授業設計と指導案の作成方法	・学生の多様な能力を踏まえ、学生の能力に応じた学習支援方法の開発に配慮する。
4.模擬授業（生活支援技術）と授業改善の視点	・他の科目との関連性や情報機器の活用を踏まえた教材研究をもとに、学生の能力に応じた学習支援に配慮し、模擬授業を設計する。
5.修得度評価の方法	・他の科目との関連を踏まえ、当該科目で評価すべきコンピテンシーの修得度及びその評価方法について配慮する。

（７）学生指導・カウンセリング＜15 時間＞

【目標】

学生指導の目的を理解し、学生の成長を支援するカウンセリングの目的や方法等について学習する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1. 学生の主体性と成長を支援する学生指導の役割	・学生指導は学生生活や学習支援だけではなく、学生(人間)の成長を願い、多様性と可能性を信じる教育実践として捉えることを説明する。
2. 社会の変化と多様な生活背景を持つ学生の理解	・学生の背景には、青年期における発達課題や留学生等の生活面や学習面での課題等様々なことが想定されるが、背景となる社会状況の変化にも触れて説明する。 ・教育心理とも関連づけて説明する。
3. 学生が抱える様々な悩みと、その背景の理解	・課題を抱える学生の事例を示しながら説明する。 ・講義内容 2 と関連して考えられるよう展開する。
4. 学生指導にいかすカウンセリング	・カウンセリングの目的は指導ではなく、学生本人が課題を乗り越えられるよう支援することであることを説明する。
5. 学内及び実習中の学生指導の実際	・学生支援は学内だけでなく、学内を離れた実習中に発生しやすいことを伝え、実習指導方法との関連性についても説明する。 ・実習指導方法とも関連づけて説明する。
6. 学生指導に必要な学内外の関係者との協働・連携の視点	・学生の成長を促す実習環境を整えるためには、学内の連携だけでなく実習先施設や家庭、医療機関や各種関係者等と連携する必要があることを説明する。

(8) 実習指導方法 <15 時間>

【目標】

実習の意義及び実習指導に当たる教員・実習指導者の役割を理解し、介護総合演習の目的と効果的な実習指導方法を学習する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1. 養成教育のまとめとしての介護総合演習の役割	・介護総合演習が学内の各科目(知識)と介護実習(態度と技術)をつなぐ科目であることを説明する。
2. 介護実習の意義と目的	・介護実習の各段階の目的と相互の関係性を示し、求められる介護福祉士像の各項目と関連させて説明する。
3. 介護実習への動機づけの方法	・介護実習の心構えや予備知識、動機づけ等を促す授業展開方法等について例示をして説明する。また、教育学や教育方法とも関連させて説明する。
4. 学内での学びを振り返る様々な演習技法(講義・演習)	・過去の学生の実習日誌等の事例を示し、実習中の体験を知識や技術の視点から考えられるよう演習形式で展開する。 ・講義内容 6 と関連して説明する。
5. 実習中の学生指導と実習指導者との関係づくり	・実習指導者の役割を理解し、実習指導者との関係づくりや学生、教員との三者関係の重要性を説明する。 ・学生指導・カウンセリングとも関連づけて説明する。
6. 実習を振り返り、実習から学ぶ様々な演習技法	・実習報告書や実習日誌をもとに経験を振り返り、経験から学ぶ経験学習(省察)の必要性と方法を伝える。 ・講義内容 4 及び 7 と関連して説明する。 ・教育学や教育方法と関連して説明する。
7. 事例検討とカンファレンスの運営方法	・事例検討とカンファレンスの目的と方法を説明し、実習中の個別介護計画の実践を教材にして意見交換や合意形成に基づくカンファレンス(話し合い)の必要性について説明する。 ・演習形式での展開が望まれる。
8. 学生の成長を促すスーパービジョンの方法	・スーパービジョンの方法を説明し、卒業後も学び続けることの重要性とそのための環境づくりについて説明する。

（９）介護過程の展開方法＜15 時間＞

【目標】

介護過程は、介護福祉の本質を具体化する過程であり、質の高い介護を実践し、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」の実現または継続を支援するために、包括的な視点から利用者を理解し、総合的に判断していける専門性に基づいた思考過程の確立と体系的な介護過程の展開方法を学習する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.生活支援の考え方と介護過程の必要性	・介護過程の必要性を説明し、根拠に基づいた生活支援の重要性について説明する。
2.介護過程の意義と目的	・介護過程の目的や基本的視点（尊厳、自己決定、自立支援等）を説明し、介護の目的に沿った介護過程のあり方について説明する。
3.介護過程の構造と構成要素	・介護過程を展開していくための他の科目や領域との関係性を示しながら、展開のプロセスを明示し、科学的な思考過程について説明する。
4.介護過程とケアマネジメント	・個別介護計画とケアマネジメントの関係について共通点や相違点を説明する。
5.介護過程の展開における I C F（国際生活機能分類）の視点	・ICF の考え方やツールとしての ICF について説明し、利用者の全体像を把握する考え方について説明する。
6.情報収集の方法	・介護過程を展開する最初のプロセスとしての情報の収集について、情報とは何か、情報収集の留意点や方法について説明する。
7.情報の分析・解釈・関連づけ・統合化	・情報を分類・整理し、その情報の分析・解釈、そして情報の関連づけや統合化をするポイントについて説明する。
8.生活課題の抽出・明確化	・生活課題を抽出・明確化し、その課題の持つ意味を理解することの重要性とニーズの検討について説明する。
9.個別介護計画の立案（目標の設定・支援内容）	・目標（短期・長期）の設定の考え方とその必要性、その目標達成が可能な計画の立案と支援内容について説明する。
10.介護過程における評価のプロセスと視点	・介護過程における評価の意義と目的について説明し、再アセスメントや計画の追加・修正の継続性について説明する。

講義内容	留意点
11.介護過程の実践的展開（施設における高齢者の介護過程）	・特別養護老人ホームや介護老人保健施設に入所している高齢者の事例をあげ、介護過程を具体的に展開し、検討する。（演習形式）
12.介護過程の実践的展開（在宅における高齢者の介護過程）	・在宅生活で介護サービスを利用している高齢者の事例をあげ、訪問介護計画書や通所介護計画書などの介護過程を具体的に展開し、検討する。（演習形式）
13.介護過程の実践的展開（障害のある利用者の介護過程）	・障害者支援施設に入所する障害者や在宅でサービスを利用しながら生活している障害者の事例をあげ、介護過程を具体的に展開し、検討する。（演習形式）
14.学生にとっての効果的な学習方法（フォーマットの開発・指導方法）	・実際に学生が使いやすく、現場の職員もわかりやすいフォーマットの開発を演習方式で作成し、介護過程の指導方法を検討する。

※現在は、上記の講義内容の1～3までを3時間、4～5を4時間、6～10を3時間、11と14を5時間（介護過程の実践的展開の演習に関しては、1事例で高齢者分野のみで行えていない）、計15時間で行っている。

※しかし、現状として、大多数の受講生は介護過程を教授したことない人である。また、介護過程という科目が養成科目に導入されたのも平成21（2009）年と新しく、それ以前の介護福祉士がいる介護現場でも、介護過程の知識及び技術すら認知されておらず、介護過程が介護実践を導く方法論として確立しているとは言い難い。「介護過程150時間」というのは個々の教員の力量が問われ、責任を押し付けられている現状があり、それが教育の質に反映されることは否めない。

※また、介護過程は、介護過程を実践する科目として介護実習や介護総合演習の科目との連動や他科目で学習した知識や技術を統合していくことが求められている。このため、実習に出すときのフォーマットの開発や作成、他の科目の理解、そして高齢者だけでなく障害のある人への介護過程の展開が求められる。

※以上のことから、介護過程を一から学ぶ教員も多く、今の時間数で理解を求めることは難しく、平成29（2017）年にまとめられた『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』（社会保障審議会福祉部会人材確保委員会報告書）によると、「介護過程の展開におけるアセスメントや個別介護計画の作成・見直しなどの業務は、介護福祉士が専門性をいかして取り組むもの」という意識が高くなっている」と述べられている背景もあり、介護過程への理解を介護教員に図るため、時間数を15時間から30時間に増やし、一つひとつを丁寧に押さえていく必要があると考えている。そして、上記にあげた3事例は、実践場面での介護過程の展開を講義の中で演習として検討していくことが求められる。

（１０）コミュニケーション技術＜１５ 時間＞

【目標】

コミュニケーション技術を教授する介護教員として、コミュニケーション技術の教育内容を知り、その展開方法を具体的に学ぶ。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.「コミュニケーション技術」の教育内容の役割表現工夫	・カリキュラムの全体像を踏まえて、教育内容の重要性と他科目との関係性について説明する。
2.コミュニケーション理論と実際	・コミュニケーションの理論と実際を確認し、教授内容を理解できるように伝える。
3.介護福祉士に求められるコミュニケーション	
（１）介護福祉士に必要なコミュニケーション	・介護実践に必要なコミュニケーションを確認する。 ・介護チーム連携のためのコミュニケーション（記録・報告・連絡・相談等）の重要性について説明する。 ・ICTの活用についても説明する。
（２）利用者本位のサービスとコミュニケーション	・信頼関係を構築し、意欲を引き出すためのコミュニケーションが介護実践の基本となることについて説明する。
（３）専門職間の連携とコミュニケーション	・多職種の専門性と介護福祉士の専門性を意識し、多職種連携に必要なコミュニケーションについて説明する。
4.利用者・家族の状況に応じたコミュニケーション技術	・利用者・家族の多様な状態を理解し、コミュニケーションを通じて信頼関係構築等の必要性について説明する。
5.障害の特性に応じたコミュニケーション	・共生社会における、視覚・聴覚・言語・認知・知的・精神障害のある人とのコミュニケーションの実際について説明する。

（１１）研究方法＜30 時間＞

【目標】

介護教員として求められる研究の意義について理解し、研究の方法と種類、進め方、発表方法等について修得する。

【講義内容と留意点】

講義内容	留意点
1.介護福祉分野における研究と倫理	・介護福祉及び教育の領域における研究動向を含む。 ・エビデンスに基づく介護実践のためには、研究が必要であるという視点の理解を含む。 ・倫理については、日本介護福祉学会及び日本介護福祉教育学会の倫理規定を必ず扱う。
2.介護教員として求められる研究の重要性	・学生が実践者として介護実践研究ができるような教員の指導力の重要性を含む。 ・教員による教材研究の重要性も含む。
3.研究の意義、研究の成果	・エビデンスに基づく介護実践のための研究の必要性への理解を含む。 ・よりよい教育実践として、教材研究の成果の活用方法も含む。 ・研究成果の公表方法として、学会での口頭発表・ポスター発表、論文執筆とその投稿方法についても紹介する。
4.研究の種類・方法・過程	・問題意識、研究テーマ、仮説設定、データ収集を含む。 ・文献等の資料収集の方法を含む。 ・教育実践研究、介護実践研究を含む。 ・量的研究と質的研究の両方を含む。 ・パソコン等の ICT の活用（文書作成、表計算、スライド作成等）を含む。
5.研究計画の立案	・立案は個人、集団、いずれでも可とする。 ・実践報告、事例検討、事例研究を段階的に実施する方法でもよい。 ・いずれの方法であっても、必ず講師による指導があること。
6.研究活動の実施	・研修期間内に実施する場合は、研修時間に含むことができる（研修期間外もしくは時間外に実施することも可とする）。
7.研究発表資料の作成と発表	・日本介護福祉学会の口頭発表の形式を基本とする。研究論文の作成でも可とする。

資料

1. 介護教員講習会科目別アンケート調査結果

■調査結果のポイント

本調査結果は、日本介護福祉士養成施設協会が実施している介護教員講習会の受講生を対象に、講習会後に実施した「介護教員講習会科目別アンケート」の集計結果である。科目別にアンケートを取っており、総数は1,584票、対象となった科目は社会福祉学、心理学、教育学、教育方法、教育心理、教育評価、介護福祉学、介護教育方法、学生指導・カウンセリング、実習指導方法、介護過程の展開方法、コミュニケーション技術、研究方法である。

■受講生の状況

後述の「2.介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査」において、受講生に教員未経験者が多いという指摘があるが、本調査の結果はそれを裏付けるものとなっている。教員未経験者は33.6%であり、1年未満も34.0%であるなど、経験がないもしくは短期間の受講生が多数を占めている。

■受講生の意見

【全体集計】

合計して3,632件の意見があげられ、良かったという意見が2,830件、改善してほしい点があるという意見が802件であり、良かったという意見が8割近くを占めた。

【良かった点】

「振り返って反省、気づきがあった」「すぐに活用したい。授業にいかせる。参考になる。学生に伝えたい。」など、受講生の教員としての気づきや新たな発見につながったという意見が多くみられた。

【改善してほしい点】

受講生の属性を反映しているためか、改善点については「専門的すぎる、難しい、理解できない」という意見が改善点として最も多く出され、少数ではあるが「もっと実践的なことを学びたい」「もっと現状や具体的な話が知りたかった」などの意見があげられた。

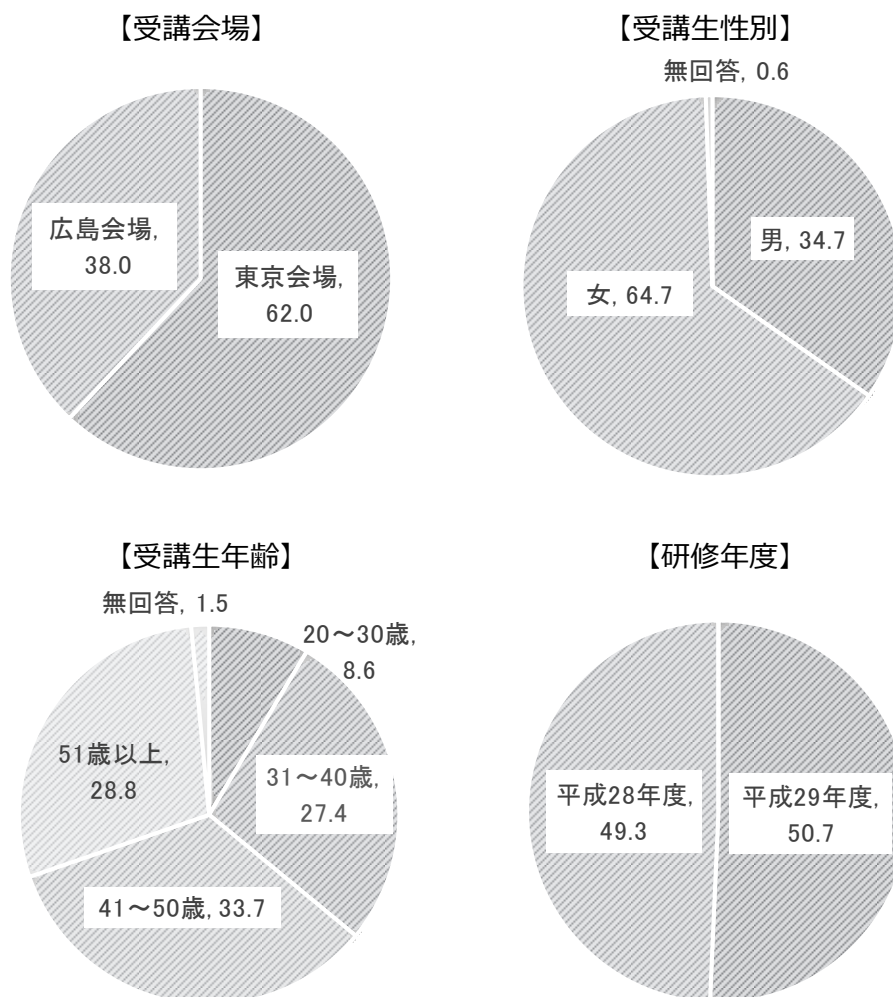
これらのほか「専門分野や勤務年数等に応じて分けるなど、課題によって考えてほしい」「受講の流れや組み合わせを考えてほしい」「受講内容が重なっている」「フォローアップ講習会を開いてほしい、スキルアップ研修をしてほしい」など、後述の「2.介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査」における課題に通じる内容が受講生からも指摘されている。

(1) 調査概要

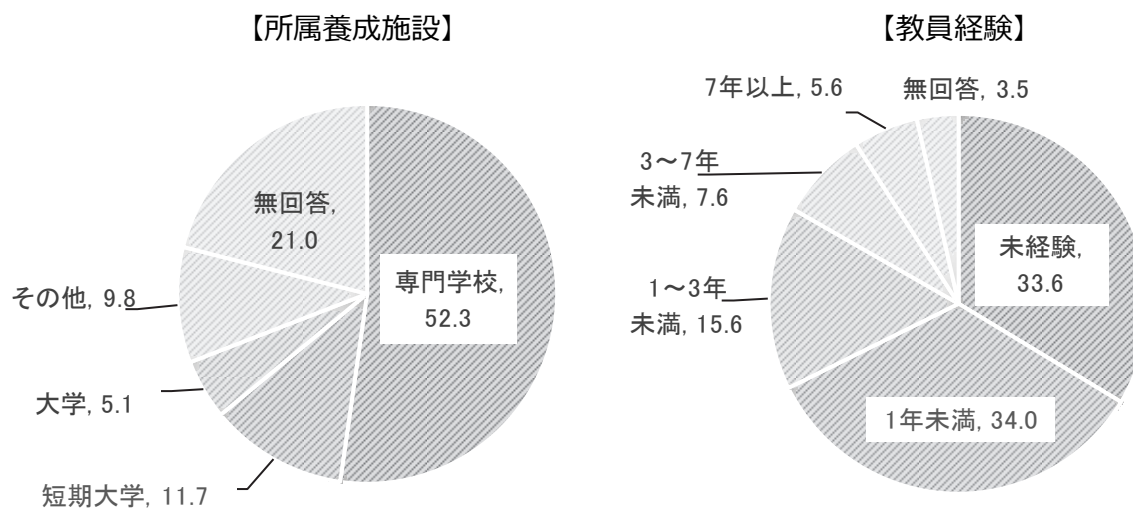
調査対象	・日本介護福祉士養成施設協会が実施している介護教員講習会の平成28～29（2016～2017）年度受講生 ・東京会場、広島会場どちらの受講生も対象とした
調査方法	・講習会実施後に実施した「介護教員講習会科目別アンケート」の集計 ・無記名式
集計対象数	・1,584 票

※以下、自由記載は原文のまま記載している。

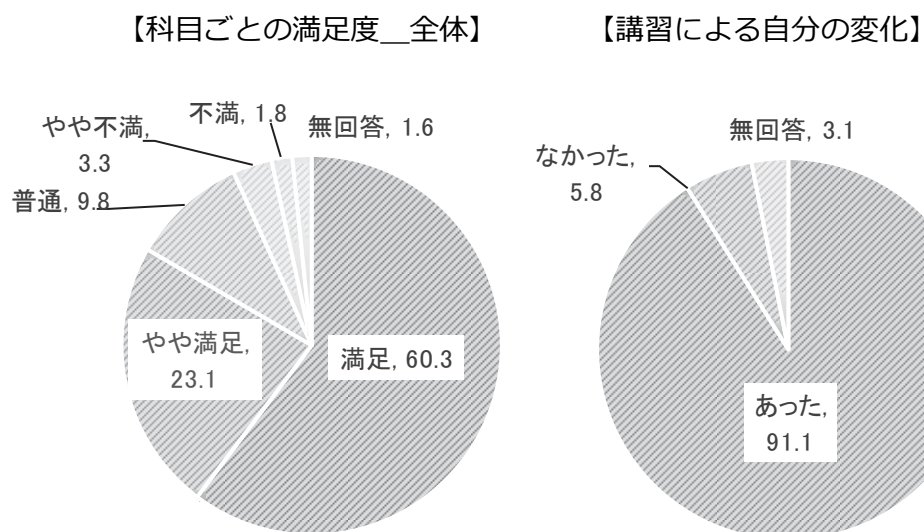
(2) 受講生の基本属性／単位：％ n=1,584



(3) 受講生の教員属性／単位：％ n=1,584



(4) 講習の満足度について／単位：％ n=1,584



(5) 講習への意見__良かったところ (2,830 件、複数回答)

※自由記載部分を統合して集計

No.	分 類	n
1	振り返って反省、気づきがあった。	384
2	すぐに活用したい。授業にいかせる。参考になる。学生に伝えたい。	234
3	興味の持てる内容（新しい発見がある。目からウロコ）だった。	196
4	介護教育の責務・あり方や専門性・方向性が理解できた。	163
5	内容について理解できた。知識が広がった。	162
6	説明がわかりやすかった。	142
7	前向きな気持ちになった。	94
8	様々な意見を聞き、考えることができた。	82
9	関連性や多面的な理解を得た。	80
10	例え話、体験談、具体例がよかった。	79
11	勉強する意欲につながった。	72
12	現場で活用できる内容だった。具体的に知ることができてよかった。	72
13	奥深さ、おもしろさ、難しさゆえに興味、関心をもった。	59
14	様々な意見を聞くことができた。	55
15	知識不足、身についていないため受講できてよかった。	53
16	講義内容の再確認、復習ができた。	43
17	講義の仕方が勉強になった。	43
18	理論（根拠）として考えることができた。	38
19	様々なワーク方法を学べてよかった。	37
20	カリキュラムの流れ、組み合わせを理解できた。	36
21	きちんと教えるため。	35
22	現実的な問題、課題、情報があつた。	28
23	話すスピード、口調がよかった。	27
24	基礎となる内容、考え方を学んだ。	27
25	ポイントがわかりやすかった。	24
26	「研究」に興味をもったから。	24
27	前準備は大切だから。	23
28	創意工夫のある授業は大切だから。	22
29	他科目、他分野を学びたい。	20
30	（制度等）新しい情報収集は大切だから。	20
31	頻度や流れの中での位置づけがよかった。	20
32	活用できそうな資料だった。	18
33	模擬授業がよかった。	18

No.	分 類	n
34	先生を目標に頑張りたい。	17
35	根拠がしっかりしている。	16
36	量が豊富でよかった。	13
37	図式や資料がよかった。	12
38	体系的に学習する重要性がわかった。	11
39	わかりやすかった。	10
40	グループワーク、演習がよかった。	10
41	イメージが変わり、向上心・意欲につながった。 情報交換ができた。ネットワークができた。	各 9
42	質問に答えてもらえた。アドバイスをもらえた。	8
43	休憩時間があってよかった。 「ぼくのまち」よかった。	各 7
44	映像の教材がよかった。	6
45	授業時間がきちんとしている。授業計画がよかった。 心理劇の教材がよかった。	各 5
46	パワーポイントがわかりやすかった。 など	各 4
47	参考図書を紹介してもらってよかった。 終了時間（5:30）に配慮がありよかった。	各 3
48	テーマを自由に選べてよかった。 開催時期がいい。開催回数がいい。 会場校の配慮に感謝。 など	各 2
49	資料・レジュメ・テキストについて。 小人数でよかった。 記述式プリントはよかった。 データをメモリスティックに入れてもらえたのはよかった。 教材がよかった。 など	各 1
	全体	2,830

（６）講習への意見__改善してほしいところ（802 件、複数回答）

※自由記載部分を統合して集計

No.	分 類	n
1	専門的すぎる。難しい。理解できない。	80
2	もっと実践的なことを学びたい。	32
3	一方通行、一方的な講義である。	29
4	開催時期を変えてほしい。	28
5	テンポが速い。早口でわかりにくい。	23
6	PC を使用しながら講義を受けたかった。	22
7	パワーポイントを改善してほしい。	22
8	開催場所に関する要望。	22
9	基本等を教えてから、ワークに入ってほしい。	21
10	目的や対象者を考えた内容にしてほしい。	20
11	予定時間内に終了してほしい。	20
12	日程にもっと余裕がほしい。	20
13	宿題、課題が多くて大変だった。	14
14	もっと現状や具体的な話が知りたかった。	14
15	もっと聞きたかった。	13
16	目的が明確でない。	11
17	資料が多すぎてどこを授業しているのかわからなかった。	11
18	内容が多い。	11
19	ホワイトボードが読みづらい書き方だった。	10
20	基礎分野・科目。	10
21	準備すべき持ち物について、事前に正確に知らせてほしい。	10
22	余談が多すぎる。 このような授業をしないようにしたいと思った。	各 9
23	質問時間がほしい。質問に答えてほしい。 開催時間帯を変えてほしい。 日程をまとめて、日数を短くしてほしい。	各 8
24	要点をしぼってほしい。 科目の内容に偏りがある。 資料・レジュメ・テキストがあるのに利用されなかった。購入したのに使用しなかった。 ピンマイクが良い。マイクを使ってほしい。など	各 7
25	専門分野や勤務年数等に応じて分けるなど、課題によって考えてほしい。 担当科目を増やしてほしい先生がいる。	各 6

No.	分 類	n
26	外国人労働力の受け入れについて知りたい。 情報量が多すぎた。 意図・目的がわからなかった。 一部の人だけの発言で終わってしまった。不愉快な思いをした。 授業時間を増やしてほしい。 パソコン環境を整えてほしい。パソコン室は使用できないか。 など	各 5
27	シラバス通りでない。 受講の流れや組み合わせをもっと考えてほしい。 受講内容が重なっている。改善してほしい。 資料、レジュメに不備があった。資料が途中から足りなかったり、違っていたりした。 ヒントやアドバイスがほしい。 事前に作業をしたほうがよい。 1 クールを短くしてほしい。 事務局との連携が悪いように思う。 など	各 4
28	話し合いの時間がほしい。さまざまな意見を聞きたい。 授業のすすめ方が悪く、集中できなかった。 専門の講師から講義を受けたかった。 資料・レジュメ・テキストがなかった。もっと資料・レジュメ・テキストが必要だと感じた。 資料はナンバリングしてほしい。 資料・レジュメ・テキストが多すぎる。 効率的・効果的でなかった。 多くの意見、考えを知りたい。 事前、早めにタイムテーブルを教えてほしい。 年間を通して取得できるようにしてほしい。 受講科目を分散してほしい。集中しないカリキュラムにしてほしい。 フォローアップ講習会を開いてほしい。スキルアップ研修をしてほしい。 パソコン持参、ソフトインストールなど、受講生の負担を考えてほしい。 など	各 3
29	具体例や実例をあげてほしい。 アクティブラーニングを取り入れてほしい。 先生によって指導内容が違い、何が正しいのか疑問が残った。 他科目との関連性を取り入れてほしかった。 内容と現状が結びつかない授業だった。 質的研究を取り入れてほしかった。 資料・レジュメ・テキストが古い。 テキストの購入・入手が大変だった。 関連科目等の参考になる本の紹介をしてほしい。会場で販売してほしい。 先生のコメントの時間を長くしてほしい。 土曜・日曜・休日に実施してほしい。 授業時間を短くしてほしい。 介護過程の展開。 スケジュールがハード。 講義をビデオ映像として残してほしい。 年齢等、個人情報を知りたい。 など	各 2

No.	分 類	n
30	授業の進め方を改善してほしい。わかりにくい。 講義とグループ活動の進め方を考えてほしい。 情報が古い。新鮮さがない内容だった。 ホワイトボードと話の内容に齟齬があるので、レジュメ・テキストが必要。 板書をすべて書き写せないで、資料が必要だと思う。 持っていない教科書の話をして、何もわからなかった。 行ったり来たりしてわかりにくい、資料とテキストの内容を統一してほしい。 資料が有効に活用されていなかった。 資料を読む時間がほしい。 教員用指導書がほしい。 資料は人数分用意してほしい。 テキストタイトルはきちんと伝えてほしい。 個人ワークよりグループワークのほうがよい。 グループ分けについて改善してほしい。 なるべく人数を揃えてほしい。 5～6 人がベストだと思う。 先生に各班を回ってほしい。 グループワークのやり方が良くなかった。 時間について改善してほしい。 量が多い。 ロールプレイをやりたい。 模擬授業の内容を考えてほしい。 スクーリング等自己学習を検討してほしい。 受講生のレベルによって、初級・中級等に分けたほうが良い。 介護や福祉に関心のある講師にしてほしい。 300 時間受講することは困難。 など	各 1
	全体	802

2. 介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査結果

■調査結果のポイント

介護教員講習会講師を対象とした調査では、4つの実施主体に所属する講師44名から回答を得た。

■運営上の課題

1) 目的・目標等の理解・共有、担当科目の位置づけや目標の明確化

「講習会全体（担当科目及び担当科目以外）について内容を理解している」（問4）は47.7%と過半数を下回り、他科目（他教員）の介護教員講習会のシラバスを見たことが「ない」（問8）38.6%、他科目（他教員）の介護教員講習会を聴講したことが「ない」（問9）68.2%という結果であり、担当科目は他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習であるか（問10）については、「やや不十分」が31.8%という状況であった。

自由意見からは、講師が集まる場、情報を共有する場の必要性、個々の講師にまかせるのではなく、統括・マネジメントする教員の配置・体制の必要性があげられている。

2) 授業評価の実施と講師へのフィードバック

授業評価のフィードバック（問14）については、「されていない」13.6%、授業評価の結果を講義・演習の展開に反映（同）することが「やや不十分」10.5%、授業評価の結果を検証・議論・相談などをする場（同）が「なかった」34.2%となっており、フィードバックはある程度なされている結果にはなったものの、評価の方法（改善してほしいところを把握できるような内容に）やフィードバックのタイミングや方法（ICTなどを活用したフィードバック）などに課題があげられた。集中講義の場合など、日々の授業に評価をフィードバックする必要性が指摘されている。

■講習会の枠組みの課題

1) 受講生の変化への対応

自由意見においては、受講者層の変化が多数指摘されている。初期のころに比べて、教員を目指す受講生・管理者を目指す受講生・介護をより深めたい受講生など受講目的が広がっている、教育経験がない人が増えている、教員になる予定がない人が増加している、受講生の学歴が多様化しているなどの指摘があり、結果として基本的な知識や意識・考え方に差があるため演習・指導がしにくい、授業展開に苦慮するなどの課題が明確になっている。

受講生の要件を厳しくする、レベルやクラスを分けて授業をしてはどうかなどの意見もみられる。

2) 科目に関する見直し

全体の時間数（300時間）について（問22①）「変更が必要」という意見は25.0%、講義・演習の時間配分（各科目の時間数）について（問22②）「変更が必要」は29.5%、講習会の

授業スケジュール（時間割）について（問 22③）「変更が必要」は 22.7%、カリキュラム構成について（問 22④）「変更が必要」は 29.5%、現在の実施・運営体制について（問 22⑤）「変更が必要」は 18.2%であった。

具体的には、受講生の基本的な理解度の低さや介護福祉養成校における教員の役割の重要性を考えると 300 時間では足りない、介護過程についてはカリキュラム改正と連動させて時間増が必要、教員経験がない人が多いことから教育系科目の時間増が必要であるという意見がある一方で、受講生の負担を考慮する必要があるなどの意見も出されている。また、専門分野では、流れとして「介護福祉学」をはじめに受講することが重要であるとの指摘が複数あげられている。

さらに、新たな科目やテーマとして、キャリア教育、留学生対応などのほか、地域共生社会、チームリーダーなどの新たなカリキュラムに対応する内容を取り上げてほしいという要望もあげられている。

3) その他

上記のほか、統一的なテキストの必要性、教える側の教員の基準をより厳しくする、介護教員講習会をすでに受講した教員に対して定期的にフォローアップする機会の必要性などが指摘されている。

1 調査概要

調査対象 及び 回収状況	平成 28～29（2016～2017）年度において、下記 4 団体が実施主体である介護教員講習会講師経験者 79 名を対象とした <table><tr><th>対 象</th><th>対象数</th><th>回収数</th><th>回収率</th></tr><tr><td>日本介護福祉士養成施設協会</td><td>32 名</td><td>22 名</td><td>68.8%</td></tr><tr><td>神奈川県立保健福祉大学</td><td>20 名</td><td>7 名</td><td>35.0%</td></tr><tr><td>臨床福祉専門学校</td><td>9 名</td><td>5 名</td><td>55.6%</td></tr><tr><td>大阪介護福祉士会</td><td>18 名</td><td>10 名</td><td>55.6%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>79 名</td><td>44 名</td><td>55.7%</td></tr></table>	対 象	対象数	回収数	回収率	日本介護福祉士養成施設協会	32 名	22 名	68.8%	神奈川県立保健福祉大学	20 名	7 名	35.0%	臨床福祉専門学校	9 名	5 名	55.6%	大阪介護福祉士会	18 名	10 名	55.6%	合 計	79 名	44 名	55.7%
対 象	対象数	回収数	回収率																						
日本介護福祉士養成施設協会	32 名	22 名	68.8%																						
神奈川県立保健福祉大学	20 名	7 名	35.0%																						
臨床福祉専門学校	9 名	5 名	55.6%																						
大阪介護福祉士会	18 名	10 名	55.6%																						
合 計	79 名	44 名	55.7%																						
調査方法	- 対象者本人に対する郵送配付・郵送回収を基本とするが、該当団体担当者を通じての配付・回収も実施した - 無記名式																								
調査期間	- 平成 30（2018）年 10 月 4 日～10 月 20 日 - ただし、締切後も可能な範囲で集計対象とした																								

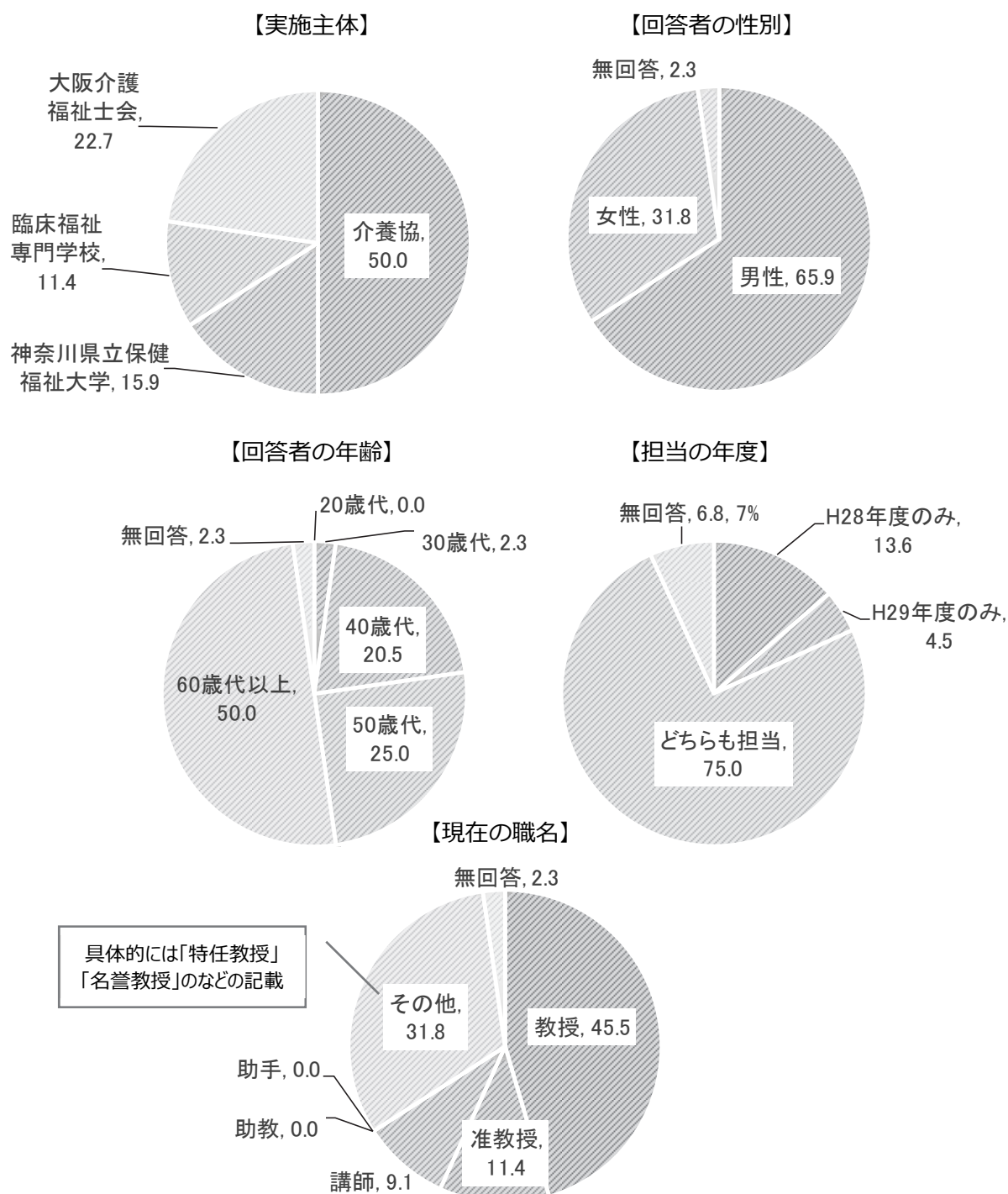
※以下、自由記載は原文のまま記載している。

2 回答者の基本属性

(1) 実施主体、回答者の性別・年齢・担当の年度、現在の職名

問 1. あなたご自身についてお教えてください。(1つに○)
問 2. あなたの現在の職名をお教えてください。(1つに○)

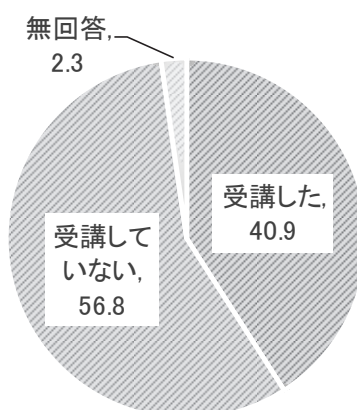
単位：% n=44



(2) 回答者自身の介護教員講習会受講経験

問 3. あなた自身は、介護教員講習会を受講しましたか。(1つに○)

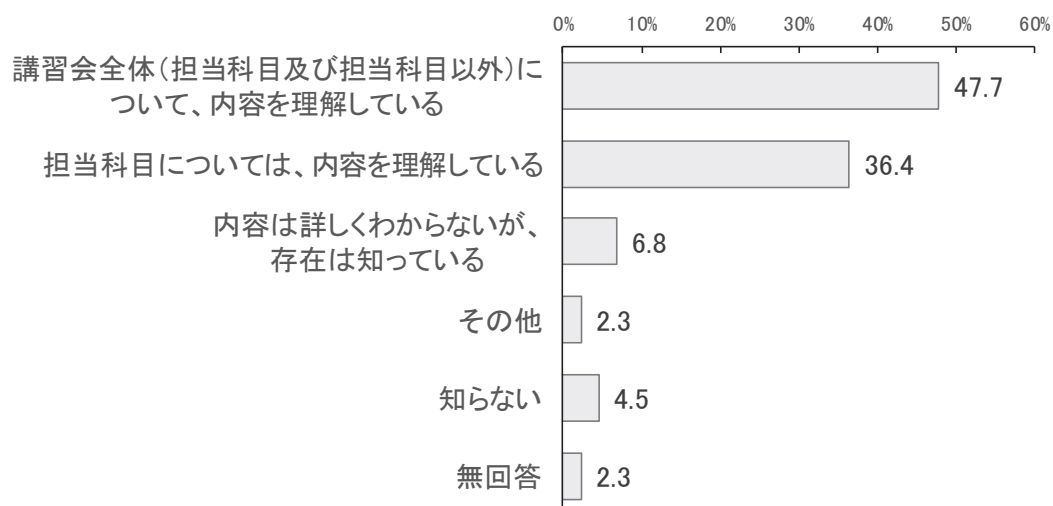
単位：% n=44



(3) 「介護教員講習会における科目の教育内容に関する講義内容」の認知状況

問 4. (公社)日本介護福祉士養成施設協会が作成した「介護教員講習会における科目の教育内容(専門基礎分野・専門分野)に関する講義内容※」(平成21年12月)を知っていますか。(1つに○)

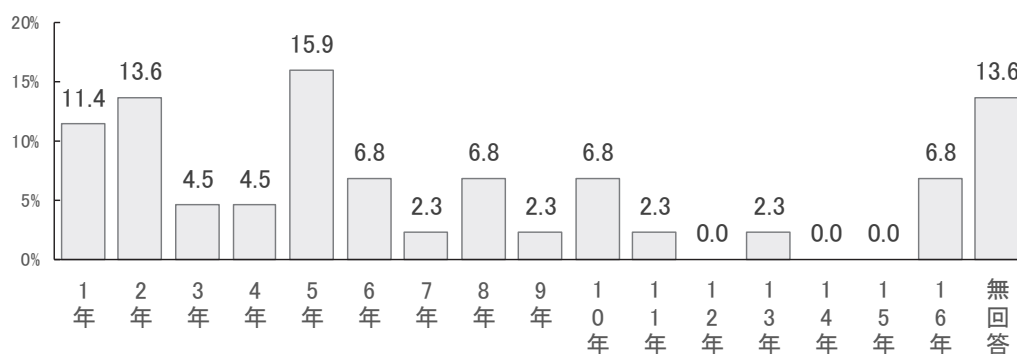
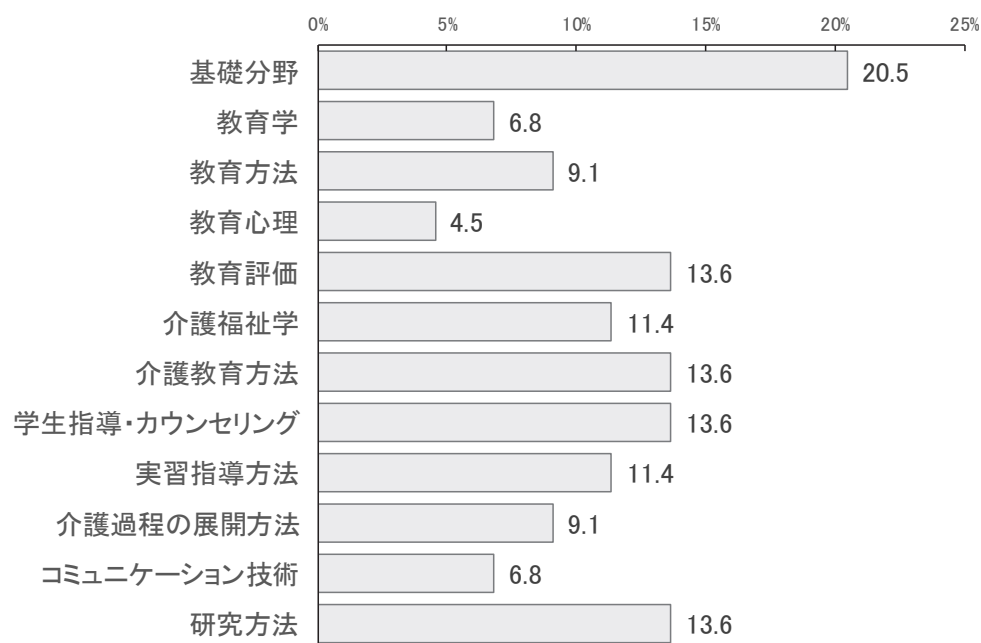
単位：% n=44



(4) 担当した科目名、これまでの担当年数

問 5. 本調査票が送られた主催者において、平成 28 年度または 29 年度にあなたが担当した科目名、担当科目のこれまでの★合計担当年数をお教えてください。★合計担当年数：平成 28 年度以前を含めた合計とし、他主催者（他校）で担当していたことがある場合はそれも加算してください。

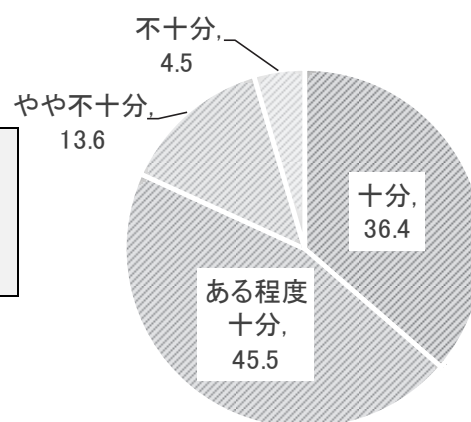
単位：％ n=44



3 講習会の目的・目標等の理解・共有

(1) 運営・マネジメントの体制

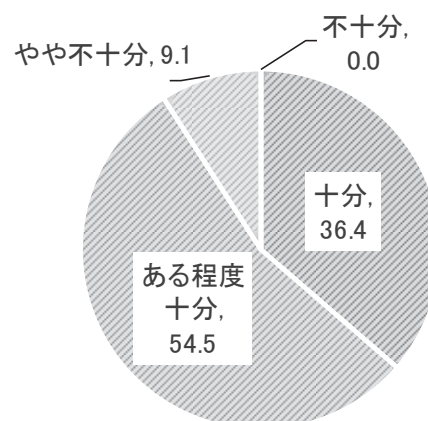
問 6. 講習会全体の目的・目標等の理解・共有、担当科目の位置づけや目標の明確化などが図られるような運営・マネジメントの体制がありましたか。(1つに○)



単位：% n=44

(2) 科目の目標・教育内容・留意点等の理解に基づく担当科目の講義・演習

問 7. 担当する科目の目標・教育内容・留意点等の理解に基づいて、担当科目の講義・演習が展開できていましたか。(1つに○)

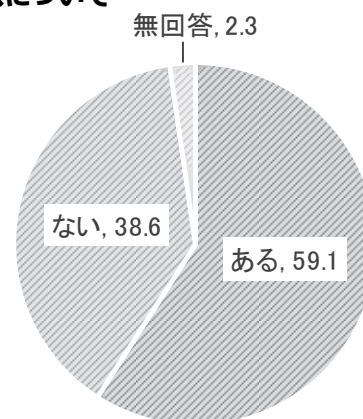


単位：% n=44

4 他科目（他教員）との連携

（１）他科目（他教員）の介護教員講習会のシラバスについて

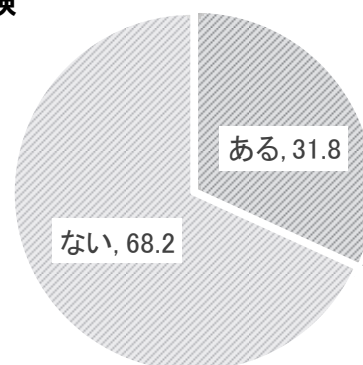
問 8. 他科目（他教員）の介護教員講習会のシラバスを見たことがありますか。（１つに○）



単位：％ n=44

（２）他科目（他教員）の介護教員講習会の聴講経験

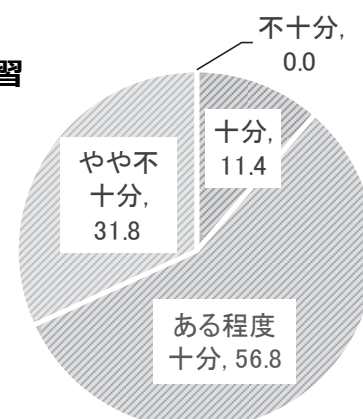
問 9. 他科目（他教員）の介護教員講習会を聴講したことがありますか。（１つに○）



単位：％ n=44

（３）他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習

問 10. 担当科目は、他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習となっていましたか。（１つに○）



単位：％ n=44

(4) 他科目との関わりを意識した講義・演習とするための課題、留意点、工夫点

問 11. 他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習とするための課題、留意点、工夫点などをお聞かせください。

■教員間で情報共有

1. シラバスなどを見てはいないが、他科目の担当者に授業運営上の留意点や内容を伺ったことはある。
2. 講習会の全体を把握する専任教員と十分な打合せを行いつつ、講義を行った。
3. 教育心理と重複が多いということは聞いております。担当教員と専門分野が近いこともあるので、よく話し合っております。
4. 介護福祉学の担当項目については、担当教員 3 名で役割分担を相談し、講義内容の記された取り決め文書に従い、それぞれが分担し、講習会参加者及び担当校に、毎年、概要を記した文書を配りました。
5. 緊密な連携を図ること（報告、連絡、相談）。適宜、情報交換を行うこと。
6. 講義前に、担当教員と打ち合わせをし、学生の取り組みの様子や関わり方などについて情報を共有（メール＆当日の打合せ、昼休み＆放課後）。それらを参考に、座席やグループの構成（ワーク）を工夫しています。その結果、指導教員らは新しい発見が多いようです。講義の中で、直接学生に発言、発表の機会を多く与えて交流しつつ、他の科目とのつながりや違いなど、学生から話を聞いて、スキルを着実に身に付けてもらうよう工夫しています。
7. 講師には、基本的に介護教員講習会の全科目の講義・演習資料を手渡していた。専門基礎分野は介護福祉士教育を行っている大学の教育学部の先生方をお願いし、介護福祉士系の教員も参加して、講習内容を協議した。

■シラバス・資料・教科書を確認

8. シラバス、講義資料の相互閲覧。
9. 他科目のシラバスをしっかりと読む。
10. シラバス、配布教材（コマシラバス）等の交換。講師会などによる調整。
11. シラバスの支援等。
12. 近接領域の科目のシラバス等を確認し、自分の担当科目のシラバス・授業計画等に反映させた。
13. 現状では一堂に会する機会がないため、シラバス、必要に応じて他の科目、教員のレジュメを参考にする。
14. 関連科目の教科書類を点検するなど。

■受講生に確認

15. 受講生に、他の科目ではどのようなことを学んだのかを聞き、それを参考にして、講習中に内容を修正したり、関連づけたりしています。
16. 学生さんから、講習について、講義について、なるべく話を聞くようにし、他の科目と内容が重複しないよう、課題が時期的に重なり過ぎないように、配慮している。他教員とのコミュニケーション。

17. 開始当初は、既修状況などについて、受講生に声かけをして進めていました（ただし、それぞれの受講順序、元々の専門性の違いもあり、あまり意味がないことに気づいたので、基本的には尋ねるのを止めました）。
18. シラバスは承知しているが、具体的内容をハッキリと理解しているわけではないため、学生に、随時内容の重複等の確認をしている。

■ 調整役が存在

19. 中軸となる教員間のネットワークが支えとなって他科目を踏まえた講義・演習ができていたが、全体をコーディネートする先生が存在あってこそ可能であったと思う。
20. 聴講はしないが、連絡を取り、内容を取り入れている。課程担当の常勤教員が調整役をし、伝達してくれる。教室にも入って、授業を聴講し、助手的に関わってくれる。それらを学生に確認しながら、重複的に授業（他科目の学びを取り入れながら）を（まとめの的に）やっている。

■ 講師が集まる場・機会が必要

21. 介護教育講習会を担う講師全員で「目指すべき介護教員像」等の共通認識の場をつくり、全員が同じ目的に向かうための工夫が必要ではないか。
22. 講師会が開かれるべきであり、介護協のシラバスをチェックするなど、全体を総括した講習会にすべきだと考える。会場によって内容や熱心さに差があると受講生が戸惑うので、運用基準をつくるか、一か所で行う方がよい。実務者研修の教員になるため、キャリアアップのために現場の職員が受講されると、講義や演習の質が保てない。受講条件は厳しくすべき。
23. 自分の科目のために、他の科目の状況を積極的に把握できていなくて、受講生にどのように伝わっているかわからない。毎回開講の時に、講師同士で顔合わせするのはどうか。会場校に負担をかけすぎのような気がする（打ち合わせとか、他の先生のシラバスをもらったりすると）。
24. 親しい先生とは意志が通るが、打ち合わせ等の時間もとれない。

■ 講義内容に関する工夫等

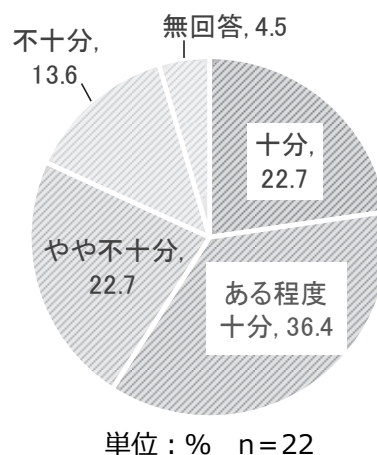
25. 介護福祉教育の体系と科目間のそれぞれの意義、目的、内容を理解しているので、よりよい介護福祉の全体像が理解できるよう講義した。
26. 介護総合演習・介護実習は、他科目との関連が大切であるため、介護の基本・生活支援技術・介護過程の展開等の科目内容を意識して、授業計画を立案してもらうように、授業を組み立てた。
27. 教員心理、教育評価に通常含まれる内容は踏まえた。介護教育全体の中で実習指導とそれ以外の科目の位置を説明し、実習指導以外を対象とした。
28. 教育心理学との関わりについて説明を行っている。
29. 可能な限り介護福祉現場で問題となる点に留意して講義した。
30. 質的研究にもつながるようにしている。
31. 法学を介護に近づける領域が必要です。
32. 担当科目の構造と位置づけを、講座のはじめに図示して説明します。この講習会や他の類似する講習を比較の対象として説明し、「ねらい」を明確に示すようにしています。

33. 1.他教科の内容について概略理解していること。2.その上で、自分の担当する科目の特殊性を踏まえて講義演習する。3.他教科との共通部分について重要な点を受講生に話す。

34. 養成校の学生実態を踏まえた上で、教育の今日的課題は何かを知っておくこと。

(5) 複数の教員で担当する講義・演習における打ち合わせや連絡調整

問 12. 1 科目を複数の教員で担当する講義・演習において、打ち合わせや連絡調整は十分にできていましたか。
(1 つに○)



(6) 複数の教員で担当する講義・演習に関する課題、留意点、工夫点、今後のあり方

問 13. 複数の教員で担当する講義・演習に関する課題、留意点、工夫点、今後のあり方などについてご意見をお聞かせください。

■工夫_教員間で情報共有

1. 同じ科目を担当する先生と、毎年受講生の状況等を共有する時間が確保されていた。
2. 自分の担当する範囲についてどのような内容になるのか、項目と概略を別の担当者に話して、双方齟齬をきたさないように留意した。
3. 一科目を複数の教員で担当する場合、個々の教員がどのような内容を講義するか、お互いに共有することが必要であると思われる。
4. 事前に、お互いのパワーポイントのスライドを確認している。少し時間の使い方がスムーズではない場合、講義の終了後反省会等を行う。次年度のために、気づいたことを、シラバスにその場で訂正修正を行い、次回に活用できるように行っている。
5. 教育評価の理論編（「講義内容」の1、2、4）と実践編（「同」3）に分けて講義と演習を行い、2名の担当教員の打ち合わせを毎年実施している。受講者の、教育現場で必要な理解と具体的方法の習得を促進することを目指している。
6. 1.相互に教科内容を理解するとともに 2.特に重点をおくところを相互に打ち合わせる。3.また担当教員が、経験知識を共有しておく。
7. お互いの講義演習に参加して、整合性を保てるように微調整した。お互いの資料レジュメを事前に交換し、確認した。

8. 本校の先生、またご一緒する先生方と、毎回、課題や内容についてミーティングを行い、何が必要か確認している。
9. 事前に綿密な打ち合わせを行うこと。進行管理を適切に行うこと。
10. 事前の担当者間での協議を密にする以外ないと思います。

■工夫_役割分担

11. 役割分担をはっきりさせること。
12. 役割分担に工夫している。「研究方法」など、専門性が色々ある場合は考慮されるべきだ。なお研究法などではオムニバス方式ではなく、サブゼミ方式（同時併行）で開講することが望ましい。

■その他

13. まずは講師を依頼するときに、どの講師を組み合わせるのかを相談の上、その主旨を説明し、実施中もできるだけ打合せの時間を確保した。課題を抱える受講生も増えているので、これは今後、特に必要だと思う。
14. 私の科目においては、長年一緒にしているのでお互いの内容はよくわかっていた。
15. 担当項目については、御担当の教員に一任する形をとっていたように思われます。担当校の責任者、もしくは研修委員の先生から、アンケート結果などを通して、ご指導いただくこともありました。
16. 他の方の実務経験等が現状ではわかりません。演習等ではその点で差が生じていると思いますので、レベルの調整が必要ではないでしょうか。
17. 現在複数科目の授業は担当していないが、各々の教員が、他科目との連動性を意識した授業を行うことで、介護教員になろうとする受講生の理解度が増すのではないかな。
18. 複数でするのが苦手なので、担当したことはありません。事前に内容をチェックし合うことが必要かと思いました。

5 授業評価の体制

(1) 授業評価の教員へのフィードバックの有無

問 14. 授業評価（受講者アンケート含む）は教員にフィードバックされていましたか。（1 つに○）

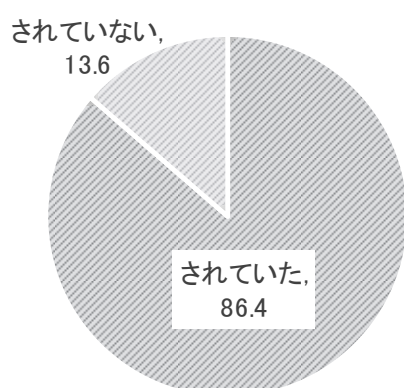
①授業評価（受講者アンケート含む）がフィードバックされていた（いる）と回答した方に伺います。
授業評価の結果は、講義・演習の展開に反映できるものですか。（1 つに○）

②授業評価（受講者アンケート含む）がフィードバックされていた（いる）と回答した方に伺います。
授業評価の結果を講義・演習の展開に反映するために、検証・議論・相談などをする場（機会）
はありましたか。（1 つに○）

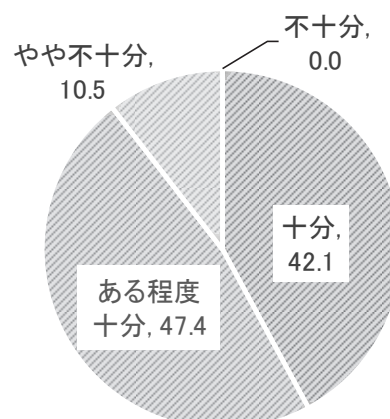
単位：％ n=44 ①② n=38

【フィードバックの有無】

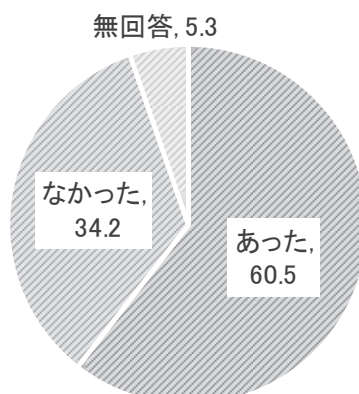
教員にフィードバックされていましたか



①授業評価の結果は、講義・演習の展開に反映できるものであったか



②授業評価の結果を検証・議論・相談などをする場（機会）はあったか



(2) 授業評価のフィードバックや結果反映に関する課題、留意点、工夫点

問 15. 授業評価（受講者アンケートも含む）のフィードバックや結果反映に関する課題、留意点、工夫点などをお聞かせください。

■ 授業の改善に役立っている

1. 大学における授業評価アンケートと読み比べ、次回の授業での課題を見出すようにしている。
2. 良かった点の記述については、次回も維持できるよう、資料やパワーポイントの作成などに配慮し、毎年資料を差し替える際には、できるだけ維持できるよう心がけました。また、工夫を求める記述については、原因について検討し、専門家に相談したり、他の先生の講義を拝見したりして工夫しました。
3. もう少しくわしく、項目別に受講生が理解できるのかを聞いてみたい。ex.講義内容ごとに理解ができたかどうかをチェックするとか。←特に現場の人が聴講しているようなので。
4. 日数の設定（2日間か3日（2.5日）間か）についてのコメントには対処のしようがないので、十分に吟味の上、決定していただければ幸いです。フィードバックのためのリアクションペーパーを用意し、1日の終わりに集約、質問については、翌日講義中に回答するようにしていました。場合によっては、追加の資料、参考書の紹介をするようにしました。
5. 1.前年度の評価（アンケート）をもとに、特に理解が十分できるように、配慮する。2.特に、理論だけではなく、演習によって必要な態度や技能が身につくように配慮した演習内容とする。
6. 自己点検、自己評価。
7. アンケートでの指摘や要望については、次に反映するよう心がけた。
8. 授業を共有するについて、受講生のレベルが非常にばらつき、段々レベルが低くなってきた。また3領域の統合が難しい。特に、模擬授業で生活支援技術を展開してもらったが、技術の低さが目立った。
9. 受講者のニーズとともに、受講者の実態を知っておくこと。
10. 授業内容に関する質問は、次回授業時に回答している。教員授業スキルに関するコメントについては、改善努力をしている。
11. 授業ごとに、リアクションペーパーとして授業評価を学生に記入してもらい、それを読んで必要と思われる内容については、次の回の講義の中でコメントをするようにしている。
12. 1日目8時間、2日目7時間の時間割である。毎日、リアクションペーパーを全受講生が記入し、（その日の終わりに）すぐにコピーを受け取るシステムになっている。受講生に、次回すぐフィードバックする。また質問にも答えることにしている。課程担当者や全教員（所長まで）共有できている。
13. フィードバックの結果は、次回授業内容の工夫に反映している。また、毎回の講義ごとにも学生のフィードバックレポートが出るので、それを参考に、次の授業内容を工夫している。
14. 2日間の集中講義のため、評価用紙は2回提出いただきますが、学生の感想や質問を踏まえて、講師からフィードバックできるのは、1日目の内容に限られます。2日目の内容は、その後提出される課題レポートの評価に反映させるようにしております。以前、講師を評価するような形のスケーリングが使用されていましたが、改善されたことで、個人的にはコミュニケーションのツールとして活用しております。その中で、学生の受け止め方や関心事、自己理解、気づき、表現力など、短い文章ながら、参考になります。指導教官らと必ず共有し、学生が言わんとするところや課題など、講師の学生理解を深めるようサポートをいただくことで、講義がスムーズに進められていると感じております。

15. 他の科目の教員の授業評価や講習会全体の授業評価の結果についてまとめ（総括）。
16. 私が担当する「介護福祉学」と「社会福祉学」も既に当初の指定されたテキストが絶版等のため、テーマに基づいた資料をコピー等で補うため、かなり量が多く、受講生の皆様には申しわけなく、今後、この課目で行うのであれば、オリジナルのテキストをつくろうかと思案しています。
17. 授業最終回の時には、授業の振り返りシートに記入してもらうようにしました。
18. 特段の留意点工夫はありませんが、授業に不満がある方の学習に気を配り、授業全体の進行に変化をつけています。
19. 授業のレベルや用語のわかりやすさなど。アンケートの後、受講者とのコミュニケーションによって工夫の仕方を考える。
20. 二日間と二日間の間が1か月あり、前半二日間のアンケートを後半に反映させた。例えば、受講生の知識、経験の差を埋めるための資料を作成するなど。
21. 受講者アンケートにあった声を参考に、次年度の講義を行っています。
22. 授業終了時（毎回）、アンケート調査があるため、必ず確認している。受講者の指摘事項には翌日の授業から対応を行い、学習環境を整える。
23. 複数の日程になるので、例えば前回よくわからなかったところを復習、それをまとめという形で講義した。講義の中で質問、問いかけ、クラス全体の話し合いを随時行い、理解を深めるようにした。
24. 原則としてアクティブラーニングの授業であり、授業内でも適宜フィードバックを得ながら授業を進めることができた。フィードバックの授業への反映は、各担当者の工夫に委ねられているが、本来のあり方としては、それで良いと思う。

■改善点及び課題

25. 改善点を提示してもらうような質問項目を立てた方が良かったと思いました。アンケートの内容が「お礼」ばかりだったので…。もちろん、それは大変ありがたいことなのですが…。
26. 毎回ミニ評価をとる。感想コメントを求めるなどの工夫を行えば、反映は可能。全回終了時のアンケート方式では、次期に向けていかすことしかできない。
27. 大学では、学生による授業評価が教員にフィードバックされているが、それに対してリアクションペーパーの提出が求められている。このような方法の導入も今後考えてよいのではないかと考えられる。
28. 記入されたアンケート用紙を直接見たが、データとしてまとめたものが講師に届けられたら良かったと思った。何年もやっていると、受講生のレディネスが異なるため講義が伝わらない。演習がうまくできないと感ずることがあった。他の科目も含めて、アンケートのデータを見せてもらうとそれが検証できるのではないと思う（単年でなく、複数年を全体としてみたい）。実施後の講師会、はじめる前の講師会があるとスムーズになると思う。
29. 直接受講者に、授業評価を手軽にフィードバックできる IT などを利用したシステムの構築。
30. 評価のフィードバックでは、評価者、回答者の特性等をそえて出していただかないと、対応策を立てることは困難です。その点の配慮をお願いいたします。
31. 課題として、評価基準を見直す時期にきているのではないかと感じている。理由として、受講生の属性も変化しているなどのことから、授業評価の客観性を得る必要性を感じている。ただし、自由記述欄の記述を見ることも、講師には必要な点であることから、その欄の工夫は必要であると考え。
32. 講師会の開催。
33. アンケートはここ2年ほど、見せてもらっていません。

6 担当科目において意識・工夫していること、課題

(1) 使用するテキストや資料について、意識していること、工夫していること

問 16. 担当科目で使用するテキストや資料について、意識していること、工夫していることをお聞かせください。

■基礎分野

1. **社会福祉学**／自ら作成した PP を資料として使用。
2. **社会福祉学**／後で読み返して、復習できる内容とした。演習を通して、社会福祉学の基礎が学べるような内容となるように工夫をした。
3. **社会福祉学**／こちらも目標や講義内容に基づいて、接近している著書をお買いもとめいただき、不足しているところはコピーで運用しております。
4. **心理学**／心理検査を 2～3 点使用しております。
5. **人間関係論**／なるべく現実の体験、あるいは授業時の体験学習における「今 ここで」の体験に焦点をあて、考察を深められるようにしている。
6. **倫理学**／パワーポイントのほかに映像資料を多く用い、授業展開にあわせてパソコンで編集（必要箇所を抽出）している。また、配布するプリントは穴埋め形式にし、キーワードを記入してもらうことで授業への集中力を高める工夫をしている。
7. **法学**／法学の基本的考え方を理解してもらうことを意識しております。

■専門基礎分野

8. **教育学**／教育学は、特に学際的な学問であるため、実践を意識しながらも原理を大切にすることから、テキストは自分で編集して作成したものを使用。
9. **教育学**／毎回、課題（アサインメント）に取り組み、授業日前日までに事前提出させ、当日の授業資料に掲載し、それを討議資料として話し合いを深めていく。
10. **教育学**／教員であることを意識（学生などではなく、ある程度専門性を備えている）した。
11. **教育方法**／この分野の代表的な研究者（佐藤学など）のものをテキストとして、紹介している。
12. **教育方法**／複数のテキストを比較しながら使っていくこと。
13. **教育心理**／自作の資料で授業を進め、テキストは参考に紹介する。なるべく実践・自己理解と関連させての講義を心がけている。
14. **教育心理**／内容：養成校の学生実態に合わせていくこと。
15. **教育心理**／（教育評価における統計技法の基礎）講習会の担当部分の準備に当たって考慮したことは、以下のことである。1.統計技法が適用されるのはテスト得点についてであるが、その得点そのものが直接の目的なのではなく、得点はそのテスト科目における心的能力の数量的指標であり、真に捉えたいのはその科目の学力つまり心的能力である。したがってその数量的指標がこの心的能力を合理的に表現しているかどうかを検討していく必要がある。2.学力という心的特性は教師の直観的判断によるものではなく科学的裏付けのある統計的方法によって測定されなければならない。3.中学校程度の数学の知識があれば教育面への推計学の応用ができる。4.教育評価などの教員認

定講習会のテキストにもなるであろう。このような考え方に基づいて、テキストが書かれていることである。さらに、5.マイクロソフト・エクセル（表計算ソフト）はほとんどPCにインストールされており、必要最低限の数式が記載されていれば、エクセルの関数を用いて例題のデータを計算することが可能なので、実際に自身で計算を行ってみるよう教示した。こういったこと（1～5）を視野に入れて配布プリントの用意をした。また電子媒体の資料が入用の受講者の方には、講習会会場の事務所にダウンロードできるように準備した。

16. **教育評価**／「講義内容」の4.に関して、改訂された学習指導要領に示されているポートフォリオを応用した「キャリアパスポート」（仮称）をとり上げる等、最新の情報を提供しよう努めている。
17. **教育評価**／初学者向けの適当な教科書が見当たらない。したがって教科書は使用せず、参考文献を複数提示している。またパワーポイントは要点が明確になるよう工夫している。

■専門分野

18. **介護福祉学**／ともかく現代の介護問題の理解と、それに応える介護福祉士教育の歩みを押さえながら、これまでに起こってきた現実と介護に係る政策的変化、また今後起こるであろう状況が見極められる最新の資料を提供することを心がけてきた。
19. **介護福祉学**／指定教科書がありましたので、それを軸に内容の展開を試みました。また、関連する論文や、根拠となる文献などを準備し、それらを通してお伝えしたい内容を、パワーポイントにまとめました。また、実際に授業で使用している教材を準備した（具体的指導法の説明の資料として）。
20. **介護福祉学**／新しい情報の提供と根拠の明確化に努めている。
21. **介護福祉学**／既にテキストが絶版になっており、目標や講義内容に基づいて、資料等を用意しております。
22. **介護福祉学**／介護過程の展開方法。
23. **介護教育方法**／シラバスや授業案の見本を資料として提示した。シラバスや授業案の見本となるテキストを事前に示した。※受講にあたってのお願い文を事前に受講生に送付。高校福祉科の学習指導要領も参考にするように指示した。担当科目については最低4社のテキストを取り寄せて読むように指示した。
24. **介護教育方法**／基本に徹底することを意識した。テキストも多社のテキストを。
25. **介護教育方法**／複数のテキストを使用する。演習教材を重視。
26. **介護教育方法**／介護教育の全体像を意識しながら学べるテキストを使う。
27. **介護教育方法**／テキストにない不足分は作成した。最新の教育課程の情報を入れている。
28. **学生指導・カウンセリング**／1.講師として経験してきた実例を取り入れて、学生指導のシステムや具体的対処法を伝達することに努める。2.カウンセリングは文字上の学習ではなく、受講者自身の自己覚知、共感性を高めるための演習、実際場面での応答を体験的に学べる工夫を行う。3.経験者が受講生にいる場合には、グループ討議を入れ、発表させるなど工夫。
29. **学生指導・カウンセリング**／教育系の大学院で使用していたテキストを使用しております。これは学生が（自分が）、困った時に使える役立つ情報が詰まったものという自負から使用しています。参考・引用文献も、パワーポイントにも反映させて、指導者になった時に、すぐに使えるよう、関連性を示しています（学生はとても分かりやすいと評価してくれているようです）。高額な本が多いため、主要テキストは、著者割の効くテキストにしています。他の資料はコピーしていますが、参考文献を紹介することで、課題レポートを作成するために読んでくれる学生もいるため、必要に応じて、専門的な分野の本を色々日常的に読むようにしております。

30. **学生指導・カウンセリング**／講義と演習のバランスを考え、必ず、1 時間に両方の要素を入れるテキストを自作している。また、「コミュニケーション技術」とのつながりを持たせている。パワーポイントと配布資料の両方を用いることにしている。
31. **学生指導**／可能な限り、分かりやすく作成をするよう心がけております。
32. **カウンセリング**／カウンセリングの原則及び最近の援助スキルについて、できるだけわかりやすい資料づくりを考えています。また、受講者が使いやすいスキルを身に付けていただくことを考えています。
33. **実習指導方法**／この科目は、現在教員である受講生、これから介護教員になろうとしている受講生に対して、介護実習とは何かを、実習生と考える、実践力を深めることを目標としていると理解している。そのことから、国が示す基準を確認することから開始している。そのことから、資料は公的なものを基本としている。介護福祉士における実習に関して、事例を元に考えることは、経験知から共通性のある事例を取り上げるようにしている。
34. **実習指導方法**／テキストは幅広く書かれている建帛社にしている。また全社協も参考にしている。資料は毎年、修正を加え、私の独自のものをつくり上げたと自負している。
35. **実習指導方法**／実際の具体例を盛り込んで、2 年間で何を教授すべきかを考えてもらうようにした。
36. **実習指導方法**／講義内容に応じて基本的な部分をおさえた上で、演習を行うため、テキストをもとに毎回レジュメを作成している。
37. **介護実習指導**／実習モデル（450 時間の組立て）を数パターン指示した。実習と各科目は意図的に配置する必要があることを意識できる資料として筆者の学校のものを提示し、説明した。
38. **介護過程の展開方法**／自分が学生に教えていることをぬすんでいただくために、わざと、学生レベルに話すことを受講生に伝えたりする。マンガなど、わかりやすいものも使用している。
39. **介護過程の展開方法**／様式を複数、使用することで、学校ごとにテキストや様式が違って対応できるようにしている。
40. **介護過程**／実践で、とことん話してもらった。多岐に渡ってしっかり考察できるよう意識した。学生へのかかわりの基本としてほしかった。
41. **コミュニケーション技術**／厚労省の指導要領を、全体の教育体系の説明に使用した。また、特に介護現場で課題となる「コミュニケーション障害をもつ人の対人援助技術」について、資料（養成校教科書）やパワーポイントを用いた。
42. **研究方法**／テキストは自身が介護福祉現場の方々に研究指導を行うなかで作成したものであるため、現場のニーズに応じたものとなっている。
43. **研究方法**／介護福祉学に特化して、研究方法を紹介している。文献をテキストとしてあげさせていただきました。
44. **研究法**／実際の演習を行い、理論の理解を深めるようにした。

(2) 教授方法や講義・演習の進め方等において、意識していること、工夫していること

問 17. 担当科目における教授方法や講義・演習の進め方等において、意識していること、工夫していることをお聞かせください。

■ 基礎分野

1. **社会福祉学**／ここ 2 年は、学生にいかに関わるかを意識した進め方に留意することで、教育として将来活用できるものを伝えるように心がけている。
2. **心理学**／受講の関心のうすそうな科目は、短縮しております。意外にも動機づけや、学習のような基礎分野に関心のある人が多いようです。
3. **人間関係論**／学生自らが学びを深めていけるような「問い」を考えている。問題発見、探求をしていく姿勢をもっていけるように工夫。
4. **倫理学**／講義のほかにグループワークも行っている。ゲームを通じて社会構造の問題点に気付いてもらう。ブレインストーミングを通じて創造的な思考力を身に付けてもらう、など。
5. **法学**／一方的な講義になりかねない。
6. **法学**／できるだけ受講者に参加してもらえるような講義を心がけています。

■ 専門基礎分野

7. **教育学**／学生参加のアクティブラーニング型の授業実践。
8. **教育学**／座学になりがちなので、双方向の授業を意識し、受講者との対話、ディスカッション、視聴覚教材の使用などにより、主体的学びとなるよう配慮した。
9. **教育方法**／「カリキュラムの構造」（エイム、スコープ、シーケンス）を理解できると「授業」（教育方法）を構成できるようになる。シーケンスは順序性なので、この講習自体が順序（くり返しを含む）どりの作業で「知識・技能の修得」に行き着けるという構成にしている。
10. **教育方法**／演習重視（アクティブラーニングで学ぶ）。
11. **教育心理**／受講生が授業の内容に沿ったテーマでグループディスカッションをする機会を設定すること。グループディスカッションでまとめられた内容を全員で共有すること（印刷物にして配布）。
12. **教育心理**／講義と演習を交互にして、モチベーションを促すようにしている。演習は個人作業とグループフィードバックを入れている。
13. **教育評価**／受講者の現状とつながっていること。受講者の自らの未来とつながっていると感じること。
14. **教育評価**（教育評価における統計技法の基礎）／講習会会場の教室に前もって PC とプロジェクターを用意してもらい、マイクロソフト・エクセルを用いて、テキストに記載してあるデータをエクセル関数により、リアルタイムで演算を行うという形態で進めていった。計算結果は、できる限りエクセルのグラフ機能を用いて視覚化して示した。また、統計処理ソフト（SPSS など）を用いれば、より少ない工程で同様の結果が得られることもあらかじめアナウンスした。
15. **教育評価**／身近な例から導入して、親しみやすさを強調した言葉づかいを心がけている。
16. **教育評価**／評価対象の 1 つである「性格」の評価に関しては、比較的短時間で実施可能な性格検査の実施を行っている。

■専門分野

17. **介護福祉学**／2 時間 30 分という短い時間のため、一方的な講義で終わらないように、質問や意見を聞く時間をとっている。
18. **介護福祉学**／介護福祉学での私の担当部分は、介護福祉士という新たな資格がつくられた社会的背景、特に産業構造の変化による私たちの生活（地域とのかかわりも含む）の大きな変化の下で現れた現代の介護問題を明らかにし、その存在の意味を明確にすること。その上で、その新たな事態に対応するための介護福祉士教育がどのように展開され、今日の状況にたどり着いたかまでを明らかにすることだと考えている。
19. **介護福祉学**／問 15、16 で指摘しましたように当初の指定テキストはありませんので、目標や講義内容を踏まえ、また現行の課目も意識し講義しております。
20. **介護福祉学**／講師の作成した著書、論文、科目用のプリントなどを使い、体系的に講義した。後日参照できる有益なものになるよう配慮している。
21. **介護福祉学、コミュニケーション技術**／講義：私は、一番初めに卒業した大学は教育学部で教免を取りました。そこで学んだ教育指導法に従い、教育内容、それらの根拠、指導で配慮すべき点などについて触れました。これらは、テキスト、資料などを用い、整理にパワーポイントを使用しました。演習：介護現場や実習等の教育面の課題などについて、授業内容に基づき振り返り、課題解決に向けた視点が見つけられるよう、指導に努めました。
22. **介護教育方法**／（初日のシラバス、授業等のかき方を担当。6.5h）／講義よりも演習中心（アクティブ・ラーニング）。講義①→演習①（シラバス・授業等の作成）（3h）→演習②（同じ科目、領域でシェア）（1.5h）→（わかったこと、わからなかったことをグループで話し合う）→黒板にかいてもらい共有→授業者が回答。
23. **介護教育方法**／演習の進め方は、そのままでも受講生が原点に返れるよう意識した。
24. **介護教育方法**／模擬授業の内容。特に学生の心境などのリアリティ重視。
25. **介護教育方法**／演習重視（アクティブラーニングで学ぶ）。
26. **介護教育方法**／シラバス、教案、レジメの作り方ができるよう実例と演習を多く入れた。
27. **学生指導・カウンセリング**／1.双方向性の講義となるよう工夫。2.参加者の発言を引きだす工夫。3.講師の講義（理論）と、各自の持ちよった事例がどのように結びつくかという工夫が必要。
28. **学生指導・カウンセリング**／アクティブラーニングを意識しています。カウンセリングのニーズが近年高まっているように感じております。学生は、“もっと時間をかけてやってみたい”“また講義を聞いてみたい”という背景に多忙感を感じます。講師として、できるだけ、学生に達成感や充実感を持ってもらえるよう、授業中の対話（学生同士&講師）を多く取り入れるように、組み立てております。
29. **学生指導・カウンセリング**／個別（プライベート）の問題を意識してもらえるような心理テストなどを入れながら、学生間の話し合いを多く取り入れている。しかし、個人の問題に入りすぎないように気をつけている。
30. **学生指導**／具体例を紹介するようにしております。
31. **実習指導方法**／介護福祉士における実習に関して、事例を元に考える演習では、経験知から共通性のある事例を取り上げるようにしている。グループワークでは、経験などを考慮して、偏りがなく、考えることができる構成を意識している。また、グループ内の関係性を随時確認し、途中でグループ編成をかえるなどの工夫をしている。
32. **実習指導方法**／講義をふまえて演習で理解できるように工夫している。1 日目「介護総合演習」のシラバスづくりを、2 日目ロールプレイングで実習指導場面を演習し、発表会まで行っている。管理職も発表会に入り、コメントしてくださっている（課程担当者と部長、所長）。

33. **実習指導方法**／受講生の特性によって進め方・提示する資料を工夫した。
34. **実習指導方法**／現在、実際に用いている実習関係の資料で示せる部分に関しては示し、授業で用いている。実習や実習生を受け入れた際、または新人教育の際に困った点、よい点を事前課題を出して提出し、グループワークを行う等の工夫をしている。
35. **介護実習指導**／実習指導、介護総合演習、実習をしっかり理解してもらうために初日は講義（6.5h）。2日目、3日目は演習中心（8.5h）。最終日に各グループの実習計画を発表してもらい、講評する。
36. **カウンセリング**／講義の流れに基づきパートごとに質問、確認を繰り返し、聞き流しにならないよう意識し工夫をしています。特に演習にはしっかりと時間をとり、つみあげ方式で最終カウンセリングのロールプレイができることを目指しています。
37. **介護過程の展開方法**／「学生に伝える際に自分が工夫していること」も含めて教授している。
38. **介護過程の展開方法**／講義では、現場の人々もわかるような内容を意識している。演者は、統一した事例にして、全員で共有できるようにして、完成したフォーマット等は、その日に持ちかえられるようにしている。
39. **介護過程の展開方法**／講師の作成した資料を使用した。特に事例の選択、使用に留意した。グループワークの教材についても用意した。ICF等の新たなテーマについてもプリントを用意した。
40. **介護過程**／私自身の中央法規の事例を使つての演習をしているので、演習の工夫、種々の演出を一緒にした。
41. **コミュニケーション技術**／ロールプレイなどを導入しております。
42. **研究方法**／最終的に、日本介護福祉学会で学会発表できるようになることを目標にして、実践的な内容となるように工夫をした。受講生の発表に対して、必ずコメントをするよう努めた。

（３）担当科目において、困ったことや対応に苦慮すること

問 18. 担当科目において、困ったことや対応に苦慮することがあればお聞かせください。

■基礎分野

1. **社会福祉学**／ここ２年間は、特に困ったことはありません。
2. **社会福祉学**／こんにち、介護福祉専門校でやや従来に比べて、この課目が軽く扱われている気がしますので、教員養成では私自身は力を入れて受講生と共有しようと取り組んでいます。
3. **心理学**／アカデミックな心理学的内容には耳を傾けてくれますが、雑談や教員の主張などには興味がないようです。人物に魅力がないのでしょうか。
4. **人間関係論**／学生の年齢幅が広いことも多く、そのため関心のバラつきもあるので、教員側に柔軟な対応が必要となることもある。
5. **倫理学**／年齢、教育経験・経歴などが様々な受講生に対して、バランスのとれた内容にすることの難しさを少し感じる。
6. **法学**／基本的な認識が不足している（学卒と思うのに）。

■専門基礎分野

7. **教育学**／学生（受講生）の資質・能力に個人差がある。
8. **教育学**／授業内容が、受講教員の専門から離れているため、やや授業に対してネガティブに捉えていた面が当初にはみられた。
9. **教育方法**／強いて言えば、受講者（特に教員未経験者）の授業イメージが最近の授業イメージと合わない。初めて学ぶ人が多く、基礎知識が不十分。
10. **介護教育方法**／教育経験の有無（大学、看護学校）により差が大きい。専門学校卒で現場経験のみの受講生には時間が不足していると思う。
11. **教育評価**／数年前までは3日間で講義・演習を行っていたが、以後、2日間での実施となった。9:00～17:30で講義・演習を実施することは、受講者の便宜を図るという意図であると考えられるが、教員の負担と受講者の疲労度を考えると再考すべきではないかと思料される。

■専門分野

12. **介護福祉学**／特にありませんが、できるだけ、参加された先生方の個性をいかせるよう伸ばせるよう努めました。
13. **介護福祉学**／年々、伝えねばならない情報量が多くなっていくので、どのような資料をつくり、わかりやすくどう語るのが課題である。あくまでも「介護教員講習会」なのだが、受講生の変化が大きく、問題意識や経験も様々で、どのレベルに合わせて講義していくのか、戸惑う時もある。介護問題の理解や介護に関する理解も、むしろ後退しているような感もある。介護は誰でもできる＝介護は誰にでも教えられる…。
14. **介護福祉学**／問15、16、17でもふれましたように目標や授業内容を踏まえつつ、現行の課目を視野に、また現在の学生も自己の授業体験を踏まえ、講義を展開しております。
15. **介護教育方法**／教員歴が少なく、イメージができない。教育観、指導観、学生観が理解できない。
16. **介護教育方法**／集中授業なので、受講生が自己学習する時間がとれない。
17. **介護教育方法**／先生の経験が0年（介護現場の職員、他の仕事をしている）～1年未満（着任したて）の教員ばかりになったここ数年は、教育のイロハを教えるのに時間がかかり、シラバスや授業案は書けない。宿題にすると不満が出る。というので、ゴール設定が甘々になってしまい、これでは質の向上はないと思った。現場の教員も入れ替わりが激しく、新任教員を育てられていない。養成校卒者は授業のイメージがもてるが、高卒の人や他分野から来た人には、養成校のイメージをもってもらうのも難しい。
18. **介護教育方法**／強いて言えば、看護と介護を区別できない人が多い。
19. **学生指導・カウンセリング**／現場の担当教員の個人的な努力では解決できない、学校の経営方針やシステムに関する問題が出された場合、苦慮する。「教育」だけでなく、「医療」や「福祉」その他の分野との連携がとりにくい現場の事例が出された場合苦慮する。
20. **学生指導・カウンセリング**／時々、個人的問題を強く話しに来る方がおられ、その対応に苦慮する。相談にはのらないようにしている。人生経験のおありの方は、自分の価値観から離れるのが難しく、若い方を説教するような姿勢になられるので、その介入が難しい。
21. **カウンセリング**／参加者の理解のレベルを合わせることに時間を取られることが、困りごととは言えないまでも、担当者としては気がつかいます。

22. **実習指導方法**／以前は、養成校出身者や養成教育に携わっている受講生が多く、グループワークもしやすかったが、昨年度は養成教育の内容すらわからない人が増えてしまい、困った。
23. **実習指導方法**／所属先が、1年生から4年生までの介護福祉士養成課程であることから、「大学に適した内容にしてほしい」など、教員研修の目的を理解していない受講生が若干名おり、各々の立場を主張する。近年、このように「答え」を求める受講生が増加しているように感じる。その都度目的を確認しているが、考えようとしていない受講生に、他の受講生があきれてしまい、グループワークが効果的に行われない状況をつくることがあった。
24. **実習指導方法**／特になし。全受講生、当校においては真剣な授業態度であり、やりがいがある。
25. **実習指導方法**／習ったことを（インプット）、形にする（アウトプット）ことができない受講生が増えている。細かい指導があるグループワークが多いため、学生の教育とあまり変わらなくなっている。
26. **実習指導方法**／多様な介護人材が養成施設に入学している。特に外国人介護人材の実習指導方法に関して尋ねられることが多くなった。また、発達障害の学生への対応等に関する指導法（家族を含めて）が多様で共通点として何を伝えるべきか苦慮している。
27. **介護過程の展開方法**／受講生のレベルに差があるので、結構、これでいいのかと悩む。時々座っているだけで、しぶしぶ来ている人に対しての対応に困る。
28. **介護過程**／ICF そのものが理解できていない、現場の知識のみで、勉強してこない。
29. **コミュニケーション技術**／特にありませんが、できるだけ、参加された先生方の個性をいかせるよう伸ばせるよう努めました。
30. **研究方法**／受講生が全く介護福祉教育の経験を持たずに参加することが多くなり、介護福祉教育への実感がないままに講習を受け、グループワーク等でも話ができない様子が見られた。

（４）担当科目の開講にあたって、特に意識していること、工夫していること

問 19. 上記以外で、担当科目の開講にあたって、特に意識していること、工夫していることをお聞かせください。

■ 内容について

1. 教員講習の受講者にあわせて「教育とは」「教育方法とは何か」「教育機関の意味」等がイメージ（理解）しやすいよう構成を工夫する。
2. 介護教員としてのキャリアパスや、教育機関における文化など、教員としての心がまえや仕事の仕方も含めた内容を、コラム的に織り込むように工夫しています。
3. できるだけ、本質的と思われるところまで話をするように留意している。表面的なところだけでは、何故、そのことを伝えるのか、十分に伝わらないのではないかと考えて、そのようにしている。
4. 学生が自らの行動や、その背景について自己洞察をしていきやすいように工夫しようとしている。そのことが利用者への理解につながっていくと考えるので。
5. 介護職としては受講生が専門家なので、講師としては、教育者としての経験をもとに、授業の進め方などを参考にしてもらえれば、という気持ちで行っている。

6. 問 18 でもふれましたが「介護福祉学」「社会福祉学」は《介護福祉士》にとって、私は最重要課目と思っていますので、とりわけ、やや看護ご出身の先生が多いので、意識して内容を共有できるようにしています。
7. 教職についた時の健康、学生の健康について、いたずらに問題視、差別視しないよう、多面的な視野を持ってもらえるようにしている。担当科目の知識を教えるというより、基本姿勢を学んで下さるように考えている。「人を理解」することの感性を養ってもらいたいと思っています。
8. 実習指導方法／学校の学年歴なども提示して、二年間でどのような学校生活を送るか。その中で実習の位置づけなども教授している。
9. 身近な問題を素材に法学の基本的考え方を理解してもらうよう心がけております。
10. 単に専門性を育成するのではなく、「人を育てる」という観点に気づいてもらえるよう、授業の中でその他の時間におけるかかわりも大切にしたい。
11. 具体例を交えて学生指導に用いることができるよう、さらに学生に理解を深めていただけるように対応しております。
12. 倫理のテーマを取り入れました。
13. 体験を重視するよう心がけた。
14. 2 日間での講義ですが、質を下げないようポイントを強調しながら、テキストに合わせたパワーポイントと配布資料を作成しております。内容が多すぎて、今後精査する必要を感じておりますが、できるだけ多角的な視点を持てるよう、心理学とカウンセリングの幅広い知識を伝えつつ、実用性のあるスキルを紹介して、職場でも使えるよう紹介しております。短時間のため、表面的な学習になりがち（知識の確認）ですが、夏場で学生の疲労の山でもあるため、ストレスマネジメントを意識して、学生が元気になるようなワークを組み入れたり、メンタルケアを自分ができるようなアイデアなどを紹介するように努めております。

■ 自ら学ぶ

15. 受講生が自ら学ぶ楽しさや方法を習得すること。短期の講習でできることは限られている。
16. 講義を、受け身ではなく自ら考え、学びあう授業を心がけている。科目の暗記ではなく、学問としての体系、内容等の専門性、魅力ある介護福祉教育ができるように話し合ってきている。
17. 指導者の教育こそが、その専門職の未来を明るくものにすると、私は信じております。そのためには、教員は、自分を、適切な目的に向けて、適切な方法で、専門的な勉強を続けることが必要です。科学性や専門性が十分に理解されていない職種の教員だから、一層しっかり根拠となる学問を修め、学生さん方に自信と誇りを持ってもらえるよう指導する必要があるように考えます。

■ グループワーク

18. 実習と実習指導を一人で基本から考えられる力、地域や実習生の現状を考慮して応用できる力を意識している（グループワークでのメンバー構成に配慮など、前述と同じ）。
19. グループワークのグループをつくる時は、事前アンケートをして、効果的に動くように配慮してきたが、最近、グループリーダーになれる人が少ない。養成校未経験の人には、非常勤に行っている養成校やたのめる養成校におねがいして、授業参観をしてから、介護教育方法に参加するよう、事前に文書を送った。自校のカリキュラム表を持参するようお願いして、せめて自校のカリキュラムを知る、理解することから始めてもらえるようにした。

20. グループワークについて、発表は1つの受講者が達成感を持つ場だが、発表が一方向的に終わることがあり、相互作用を考えると十分ではないと思っている。本授業ではワールドカフェを模した発表を取り入れている。

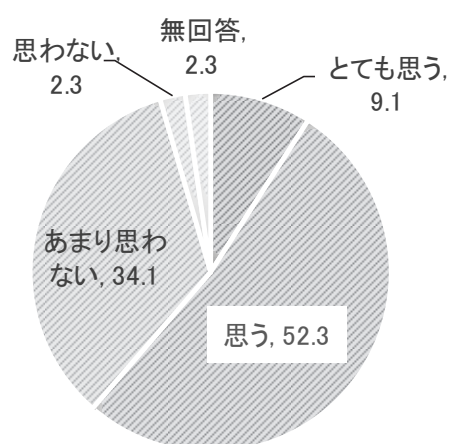
■その他

21. 「楽しく」「充実した」「やりがいのある」学びになるように工夫。アクティブラーニング重視。短大の教員レベルを目標に、レベルを維持すること。
22. 介護の期間は長くなり、それを支える保健・医療・福祉の対応もまだ追いついていない状況の中で、誰でもできるようなことではないこと、その最先端に、介護に係る私たちは存在しており、新たな事態に対して、日々の実践を通して、問題提起し続けていくという社会的責任は大きいし、人類の未来を決める大きな柱の一つであることを自覚していただくことを、常に意識している。
23. とても工夫している。準備に時間をかけて、計画的に、限られた時間を有効に用いている。教員の学生に対する関わりの重要性、やりがい、介護のすばらしさを伝えるよう意識している。
24. この講義をきいて、これからがんばっていこう！と思ってもらえるようにする。受講生の悩みにはできるだけ向き合う。わかりやすいスライド、話し方に気をつかう。中に、介護には興味のない教員志望の人もいるので、介護のステキな話をたくさんする。
25. ともかく誰もがやがて迎える現実であり、他人ごとではないこと、人生80～100年時代の介護は、人類が初めて経験することであり、これほど家族が小さくなり、地域との関係も希薄となる中で、教師としての本気を見せること。
26. 分かりやすい授業を心がけております。
27. 受講生が疲れないようにすること。

7 介護教員講習会の改善に向けた意見

(1) 受講生のニーズや特性に応じた内容等

問20. 現在の介護教員講習会は、受講生のニーズや特性に応じた内容や教授方法になっていると思いますか。(1つに○)



単位：% n=44

(2) 受講生のニーズ等に応じた内容等になっていないと考える理由、今後のあり方

問 21. 「あまり思わない・思わない」と考える理由や、今後の介護教員講習会のあり方についてご意見をお聞かせください。

■ 受講生が変化

1. 受講生の多様化。特に教育経験を全く持たない状況での、受講に対する対応が必要と思われる。受講の前提条件を明確化し、徹底すること。教育経験を持たない受講希望者には、別途教育の機会を設けること等も検討されるべきである。
2. 学生の変化とともに、教員になろうとする受講生の意識や状況も変化している。この講習会を効果的に活用するために、実際に養成校で授業を行って、教員側から指導を受ける期間が必要ではないか（教員予定者のための教育実習など）。そのことで、受講生の意識を高め、現在教職に就いている人（5年、10年以上の方）と、初学者（現在求職中の方等）を同じ講習会で対応するのは難しいと感じることがあります。
3. 受講者の多様化。教員になる予定、現在教員である受講生が少なくなってきたと感じる。したがって意識、考え方に温度差が生じている。
4. 教員より現場の受講生が多いということで、レベルはどうかいつも思っている。
5. この講習会が始まった当初は、すでに教員経験の長い先生が多く、それをベースに演習ができたが、現在は、経験0～1年の人が大半で、教員像が不明確な中での受講のためか、演習が大変実施しにくい。未経験者向けのプログラムの開発が必要。養成校卒の介護福祉士の教員は基本知識、技術と学校教育のイメージがあって、講習会になじみやすいが、現場実務5年の国家資格者の場合、養成校教育のイメージや基本知識・技術が不十分で、講習会で苦しんでいるので対策が必要。社会福祉、看護領域の教員には、介護福祉士養成教育へ誠実にとりくめない人も少なくない。対応がいないか。
6. 受講生の質が変わり、介護福祉教育に対する熱いおもしろいを語る人も少なく、こちらの気持ちがあえってしまう。
7. 受講生には教員経験者、修士修了、大学卒、専門学校卒など多様であり、一律では合わない。一部は、eラーニング対応できると思います。
8. 現場経験がしっかりしておられる方が少ないように思います。実務がしっかりできないと、この領域では本当の指導が困難です。社会福祉の教員も同じことが生じていますが。
9. 経験0だということで積極的に授業に参加してこない。社会福祉領域の受講生は、積極的と消極的の差が大きい。

■ 科目等の変更をしたほうがよい

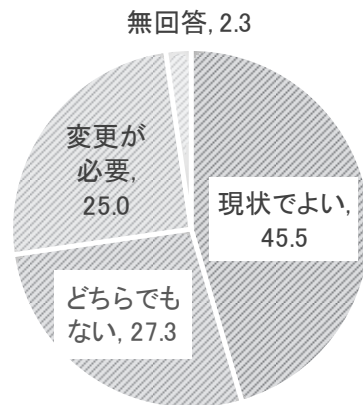
10. 受講生の中には、「教員」になることの意味を自覚していない人が多数含まれているため、「教育学」系の科目の増強が必要である。講習会自体の講師についても、現在の高等教育の教育方法等に関しても学んでいるべき。
11. 留学生の増加に対応した内容が必要だと思いました。
12. 介護福祉養成課程のすべての科目について、基本的な知識を復習する内容があっても良いと思う。

■その他

13. 教員が介護に関して無知であるため、受講生にはもの足りないのではと思う。
14. 研修を受講する意義を再確認する機会になるのではないだろうか。
15. 「受講生のニーズや特性に応じた内容や教授方法」と言っても、介護福祉士養成教育のルートが様々であり、養成施設での教育を受けた経験のない業務 5 年の受講生や、実務者研修や初任者研修の講師でいいと考えている受講生に対して、年々減少していく 1850 時間の養成施設の教員研修は、どこまで対応するのか。きちんとして議論が必要だと思う。
16. 受講の声を積極的に集め検討する。
17. 教育が、教育される側のニーズに配慮することはあっても、振り回されては教育の目的がズレるように思われます。ニーズの根拠を明確にしてから、教育の目的にできるか否かの判断になるかと思います。「いいと思う」根拠として、様々なバックグラウンドをもつ教員に対して、厚労省のご指導に従い、努力した点はすばらしいと思う。内容についての受講者のアンケート結果をみても、一定の効果はあったように思います。

(3) 全体の時間数 (300 時間) について

問 22. ①全体の時間数 (300 時間) について
■どのように変更したらよいか、変更が必要な理由をお聞かせください。



単位 : % n = 44

■変更が必要_増やしてほしい

1. 基本科目 (教育学関係) は、受講生にとって重要な科目であることは実感しているが、この時間数を考慮できないか。できれば、時間数増加はなくても良いと考える。問 21 に関係するが、時間数の大幅な増加は現実的ではないとも考えられるので、3 日間程度の教育実習と前後の振り返り等を含めて 40 時間程度の内容増加までは可能か。
2. 介護過程は、授業数がカリキュラム改定で増えるのに、教員講習会では一番少ない時間数のところ。せめて 30 は必要。
3. 介護福祉養成校における教員の役割の重要性を考えると、全く足りない。せめて、300 時間 + 180 時間位は最低必要。短大と同レベルの教員 (実務 + 修士課程) の水準を確保する必要がある。
4. 初期の頃よりも受講生のレベルが低くなっているため、補充が必要。300 → 480 時間位は必要。※ 2000 年代の受講者には大学院生 (20 ~ 30%) も多かったが、最近は減っている (5% 位)。
5. 神奈川県立保健福祉大学は、時間数を相当ふやしているのに、問題ない。300 時間は少ない。特に介護の専門性に関わる科目を充実させたいと考える。看護教員の講習会の内容を参考にしてほしいと思う。

■変更が必要__減らしてほしい

6. 時間数が多すぎる。カリキュラムの見直しをして、コンパクトな中で必要なことが学べるようにしてほしい。その際、全員同じプログラムではなく、介護福祉士養成教育の理解度に合わせてプログラムを変えるべきと思う。

■時間ではなく内容の検討を

7. この時間では、基礎的な教育基盤が違う今の受講生の状況では、特に専門科目をきちんと理解し、なおかつ教えられるようにするのは難しい。科目の変更というより、今でも必要最低限の科目設定なので、むしろ内容の検討だろうが…。
8. 教員に対する教育の目的によって、時間数は、どのようにも決めることができるように思われます。まず、「どのような教員を養成したいのか」次に「どのような、内容を指導したいのか」「養成の方法と場所」などにより、時間数が決まってくるように考えます。指導できる人材の見通しも必要となります。できれば、1年過程の教員養成コースを、設置していただきたいと思います。しかし、短期決戦であれば、300時間を有効に使うカリキュラム案で突破することも方法としては可能かと思えます。

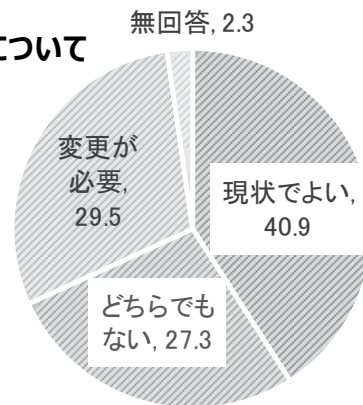
■負担がない時間数設定を

9. 受講生の生活を考えて、無理なく学習できる時間数を考えることが必要だと思います。
10. 受講生としての経験から、300時間でよいと思われる。教員をしながら受講するとすれば、これ以上の時間数をこなすことは困難と思われる。
11. 長いのは良くない。負担が大。

(4) 講義・演習の時間配分（各科目の時間数）について

問 22. ②講義・演習の時間配分（各科目の時間数）について

- 変更が必要な科目名、どのような変更が必要か、変更が必要な理由をお聞かせください。



単位：% n=44

■基礎分野

1. 心理学 4 日で 30 時間は、教える方にとって苦痛です。1 日 2 科目等にするのは、担当校の裁量でしょうか。

■専門基礎分野

2. 教育系科目の増強が必要。教育学→45 時間。教育方法→45 時間。教育評価→30 時間。
新：ダイバーシティ教育方法（外国人学生）30 時間。※専門分野科目の増強が必要→科目・

時間増。介護教育方法→45 時間。実習授業方法→30 時間。介護過程→30 時間。新：学生理解→15 時間。介護機器活用→30 時間（IT&AI 基礎含む）。全 90 時間増。※本来、各科目とも大学の単位並（40h/1 単位）の学習が必要。

3. 教育学～教育評価で 90h あるが、教育者になるには不十分だし、教員講習会としては長すぎる。コンパクトにしてほしい（実際、受講生は理解していない）。介護福祉学、研究方法の 30h は長すぎる。学生指導・カウンセリング、介護過程、コミュニケーション 15h も長すぎる。介護教育方法は今の時間ではシラバスも授業案もかけないし、模擬授業もできないので、ここを充実させるべき。
4. 基本科目である、教育内容に関して、演習の時間を多くすることも必要ではないか（聞いていれば修了できると認識している受講生もいる。理由として、今後との結びつきを意識できていないなどの状況があると感じている）。

■専門分野

5. 専門分野の科目については、最低限「介護福祉学」をまず受講すること、「研究方法」は最後に持っていないと効果が半減する。
6. 「学生指導・カウンセリング」（15h）の中で、学生のニーズと関心が高い項目の一つに「発達障害」があります。前任者の講義内容を大幅に変えて、できるだけ多くの情報提供に努め、テキストもレジュメもワークも工夫しておりますが、その中でも、学生自身も職場でも、また将来の学生指導上でも、発達障害の理解は不可欠のため、私自身の別の職務上での知識も入れつつ、参考文献を紹介しながら授業に組み入れております。学生達からは、とても参考になるとの評価ですが、時間が充分取れず残念に感じております。あと 1 時間でも増やしてもらえると助かります。
7. 「実習指導方法」は二科目にまたがる科目である。「介護総合演習」と「介護実習」について教授方法や個別対応まで盛り込むには時間不足である。
8. 実習指導に関してはもっと時間が必要である。施設の状況のアセスメントができ、学生のアセスメントができる力量が実習指導には必要です。

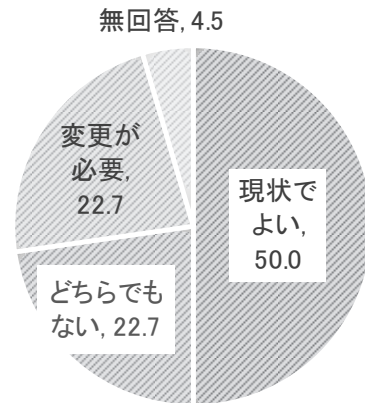
■時間数より指導法が大切

9. 担当科目の経験からいえることは、時間の使い方だと思います。沢山時間をいただいたら、指導する内容が深まるかどうか、一般論では語れないように思います。介護現場で役に立つ専門職を指導するために必要な教育内容ですので、時間数より指導法が大切かと考えます。

（５）講習会の授業スケジュール（時間割）について

問 22. ③講義・演習の時間配分（各科目の時間数）について

■どのような講習会の授業スケジュール（時間割）が望ましいか、変更が必要な理由等をお聞かせください。



単位：% n=44

■集中講義

1. 集中講義が多いが、学習効率が低い。各科目ともできれば間隔をおいて数回に分けての実施が望ましい。開講時間の半分程度は、通信制での開講を認めてもよいかも知れない。ただし、その場合、せめて放送大学のレベルを維持することが必要。
2. 集中講義（５日～１０日）はとても受講しにくいので、通信教育のスクーリングのように土・日開催が良い。会場は東京だけだと行きにくいので、全国数か所にほしい。
3. 他の業務との関係で、夏季に集中して実施しています（前任者の時からの引継ぎです）。学生にとってはハードかもしれず、現状でよいとは言いきれませんが、個人的には現状の集中型の講義の方がワークもしやすく、助かります。

■講義の順番

4. 介護福祉学は先に必須で聞く。介護過程は総合科目なので、最後の方に聞く。
5. 現状として、難しいと思われるが、講義間の連動を意識した時間割を組むことは可能か、検討は必要ないか。

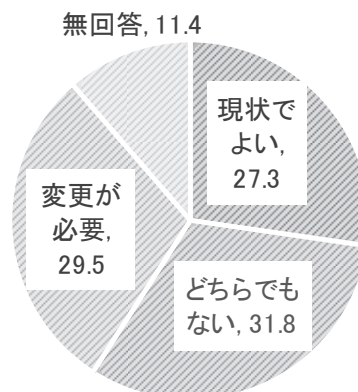
■その他

6. ２日間 15 時間よりは、2.5 日間 15 時間の方が進めやすいと思いました。ただし、受講生の中には、宿泊負担について、フィードバックペーパーに書かれている方もいらっしゃったので、一概には言えないと考えています。
7. 受講しやすいように組んであげてほしい。
8. 望ましい授業スケジュールというよりは、会場の都合でスケジュールを決めざるを得ない状況がある。演習は少し時間をかけて取り組みたいが、受講生自身がグループワークでの自分の立ち位置や役割の果たし方がわからず、討議ができない状況を考えると、時間の配分の仕方や、ファシリテーターの確保などが課題。
9. 講習会の数が少なすぎると思います。受講者が選択できるよう数を増やしてほしい。
10. 介護協の研修委員会のご方針に委ねたく思います。現状のスケジュールを変えたい理由があり、根拠があるなら、それらを明らかに示して、その妥当性について議論すべきかと考えます。

(6) カリキュラム構成について

問 22. ④カリキュラム構成について（追加あるいは不要と思われる科目、内容を充実すべき科目など）

■追加あるいは不要と思われる科目、内容を充実すべき科目などをお教えてください。また、変更が必要な理由をお聞かせください。



単位：% n=44

■基礎分野・専門基礎分野

1. 倫理（法）。
2. 教育に関わるものは、どれも大切なものなので現状でよいです。
3. 教育学系（最近の大学教育改革の流れを踏まえるため）及び専門科目系（団塊世代の介護など、利用者の変化が予測されるため。また、外国人の学生がふえており、介護全般について深い理解を求められるため）とも増強が必要。
4. 基本科目である教育学系の科目を、専門科目と連動できるような工夫の余地はないか。教育学系全般科目は、講義が中心であると思われるが、演習はどのような内容を行うのか、介護福祉士養成と連動するような再構成は必要ないか。教育評価は、重要な科目であるが、ITの活用による評価などを充実する必要はないか。
5. 教育評価は教育心理に含ませられないか。

■専門分野

6. 介護教育方法は、介護実技（介護技術等）の授業案づくりで統一すべき。
7. 介護教育方法を細分化すべきである。不要な科目はない。
8. 生活支援技術に関することを科目に入れる必要がある。それができなければ、少なくとも介護教育方法のところは、必ず生活支援技術での模擬授業を行うことを明記すべき。コミュニケーション技術も、特に障害に応じたコミュニケーションを充実させること。介護実践におけるチームマネジメントをどこに入れるかの検討。実習指導方法では、地域における生活支援をいかに意識させるかを検討。
9. コミュニケーション技術はいりますか？いらないのでは？
10. 「コミュニケーション技術」は「学生指導・カウンセリング」に吸収してもいいようにも思います。人間関係におけるコミュニケーションは、カウンセリング、介護場面におけるコミュニケーションは、他の介護科目で補えるように思います。

■新たな教育内容

11. 現状でもよいが、可能であれば「キャリア教育」を追加してもよいのではないかと考えられる。
12. 介護教員としてのキャリアパスなど、仕事の仕方や求められる役割などの内容を扱う科目があってもよいのではないかと。大学院への進学、最近の教育界の事情などなど。

13. 外国人介護士などの課題。地域共生サービスに関する内容。チームリーダー（新カリ）をふまえた内容。
14. 全体のまとめとして教育課程運営、学生指導の実際についての研修が一日あればと考えます。介護教員総論、介護教育の全体像の科目があるとい。
15. 受講生自身の自己理解も含めて、将来（または現在）学生指導に当たる教員を視野に入れますと、特別支援教育の流れと、発達障害の理解（対応）は不可欠の科目と感じております。（2）に前述の通り、多様な教材を参照しつつ、授業に組み込んでおりますが、より丁寧に教授すべきと感じます。※講師としては、医師、臨床心理士の他に、発達障害者支援センターの職員などが、実践的な情報提供が可能と思われます。他のカリキュラムの先生方に、ご担当願うのもよいと思います。

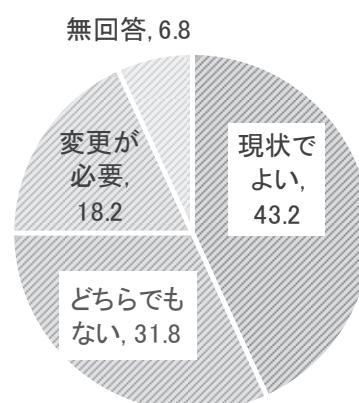
■その他

16. 様々な考え方があろうかと考えます。教員に求める内容に変化が生じたのであれば、その是非をご検討いただき、将来に向けて、現在の介護福祉士に認められる専門性と独自性を維持していくことができる教員の育成に向け、教員の教育カリキュラム構成を整え直し、10年後の結果をみてはいかがでしょうか。

（7）現在の実施・運営体制について

問 22. ⑤現在の実施・運営体制について（教員体制、学生指導体制、運営体制等）

- 現在の実施・運営体制についての課題やご意見等をお聞かせください。



単位：％ n=44

■改善点及び課題

1. 各科目担当教員は、当該科目に関し、著書あるいは数本以上の論文を執筆している人に限定すべき。単に当該近隣分野を専門とする大学教員というだけでは、適切な教育は難しい。講習会のクラス人数を40人以下に抑えるべき。それ以上では適切な演習教育等は行えない。
2. 定年退職されているベテランの先生が専属講師となって全国同レベルでやってみてはどうか？レポート、宿題も探して、中身はもう少し厳しくしてほしい。受講要件を守って受け入れをしてほしい（現場5年がない人等要件のない人を入れない）。
3. できるだけ地方分散型が望まれる。
4. 中軸を担う教員と全体をコーディネートする先生の存在があつてこそ、実質的に成立する講習会であるが、そうした一部の方々の負担が大きく、力量も必要であるため、次世代で同等のことが実施できるよう準備ができているのか懸念される。
5. 現在、統括する教務主任のような役割は置かれていないが、全体を把握する者の設置は必要ないか。
6. 学生一人一人との関わりが、もう少しできる体制があると良いかなと思います。

7. 実施・運営体制といっても、東・西会場を委託された2校が実質的には切り回してきた。2009年度改正時に、改正に合わせて、介護協の教育・研修委員会の中に「介護委教員講習会の講習内容見直しに関する小委員会」をつくり、シラバスの検討は行ったが、東会場は教員がほとんど関わっておらず、ベテラン事務にこちらの意向を伝えて、可能なところは調整をしていくぐらいしかできなかった。西会場は委員の学校での実施であり、長年、講師チームをつくっており、シラバスも反映できたと思う。いずれにせよ介護教員講習会は、できればこちらの都合で時間設定できる会場確保と、講習内容について適切に講義できる講師の確保とチームづくり、講習会の全体を見守り、受講生も指導ができる体制づくりがなければ効果を上げられない。特に大学での実施が諸事情あって難しいことを考えると、単なる会場の貸し出しに留まらない専門学校での受け手を探したいが、どこも経営が厳しく余裕がない。介護福祉士養成教育の今後を見据えながら、まさに多職種連携やチームマネジメントを教える力が求められる教員構成を、どのように行っていくかは、抜本的な検討が必要である。

■その他

8. 事務局が専任ではないので、それは大変だと思います。講習会中、会場ですべて受講生や講師の対応をされていましたので。
9. 実施校にはいろいろ迷惑をかけるが、担当者、全科目を理解し、運営に最大限協力してほしい。
10. 現状しか、しかたないのでは。
11. 事務の方には、常々非常にお世話になっています。とくに問題は感じていません。
12. これらについて最も御骨折りをいただいた介護協関係の御一同様に対し、心より感謝致すと共に、もし、よりよい方法等が考えられるのであれば、ご一任致したいと思います。講習会開始時から、受講生、講師、研修委員として関わらせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。
13. 広島会場では、いつもていねいにサポートをして下さいました。大変ありがたい限りです。
14. 当校は、綿密な教育体制である。
15. 私は担当科目しか関わりがないため、何とも言えません。事務局は大変だと思います。
16. 真摯に将来のよい教師像を考えて運営している。

（８）介護教員講習会をよりよくするためのご意見等

問 23. 最後に、介護教員講習会をよりよくするためのご意見等をお聞かせください。

■授業内容、時間、クラスについて

1. 表面的なHOW TOにならないこと。受講生が応用的に力を出せるような内容・方法をとること。
2. 全国各地で実施する場合、内容に大きな違いがないように調整する（講師にもよると思いますが）。
3. 体系的なカリキュラムが組まれており、大枠は現状でよいと考える。しかし、多様な人材が入るため、特に外国人介護人材への指導を一部変える必要があるように感じる。また、学生指導、カウンセリングの科目において発達障害や手帳を持つ学生への指導（家族を含めた）内容があってもよいと思う。

4. 教員としての資質・能力を向上させていくための創意と工夫として、他の校種（小・中・高校）の授業の参観を義務付けてはどうか。
5. 年齢、学歴の違いを、もう少し均一にしたクラス編成ができると良いかもしれません。知識量が違えば、同じ授業の中では必ず不満が出るように思います。特に高学歴の方は難しいと感じます。
6. 内容は、教員養成としての厳しさを追及してほしい。介護過程、シラバス、授業案の作成は実践的に学べるようにしてほしい。
7. 「介護福祉」の意義や魅力を発信するために求められる知識等を、講習会の中に盛り込むことが求められると考えています。プラスの価値を発信できなければ、そこには力のある人材は集まらないと思います。積極的にプラスの価値を発信できるような内容を盛り込んで、介護教員を育てることが必要ではないでしょうか。
8. 介護教員になろうとする受講生の意識向上と、実践力をたかめるためには、何が必要か考えていく時期にあると思う。経験知を深める工夫として、受講生である時に、他校や養成校の現状を知る、体験する機会をつくるなども必要かと考える。そのことで、現養成校教員の力も向上できるか？（これは、地域における養成校の現状で異なるとも感じている。交流が深い地域、浅い地域。）ただし、介護福祉士を目指す学生が減少している現状としては、狭い意味では難しいか。広い意味で介護福祉士養成の向上のためには重要だとは感じる（経営と教育の難しさ）。
9. 一日の開講時間数が多すぎるのではないのでしょうか。受講生の方が疲れ切っておられるように思います。
10. 介護職務における法定専門職としての介護職務における介護福祉士の役割を考えると、介護福祉士養成教育の水準向上は必須の課題。そのために必要なのは特に専門学校における「教員」の質の向上である。そのためには、せめて高校教育養成課程の 30 数単位＝1350 時間＋アルファが望ましい。あるいは大学学部後期分 62 単位、または修士課程 30 単位としても現行は少なすぎる。（1 単位・45 時間）また、担当教員もその専門領域できちんとした業績を有する人をあてるべきである。
11. 将来教員として、より専門性の高い人材を育成するためには、研究は不可欠だと思います。学生のニーズの変化で、研究を 1 年の中でやり遂げることは確かに困難かもしれません。そこで、今後検討可能であれば、1 年目は概ねこれまでの内容（カリキュラム）として、新たに、研究をしっかりやれる学生を 2 年目に育てるという方法もあるのではと感じます。都内都立高校の教員達も、大学の実践センターに 2 年間派遣させてもらい、1 年目は講義中心、2 年目は研究を仕上げるというニーズを終えて管理職になる人が多いです。人数は少なくとも、介護領域の専門性を維持しつつ、次代の後継者を本気で育てる取組に期待したいと思います。まとまらない内容で恐縮ですが、今後ともよろしく願いいたします。

■教員について

12. 生活支援技術を担当する教員が技術ができないことが気になります。技術を担当する教員には、しっかりと基本技術の指導が必要だと感じます。
13. 講習会の講師の人選について、基準を設ける。
14. 参加者の皆さんにとって、よい学びとなるように、個々の担当講師が尽くすこと。それが一番大切なことと考えております。
15. その科目が教えられればよいというものではないので、人選を考えて下さい。しかし皮肉にも受講生のニーズには合ってしまっています。何の役にも立ちそうもない「基礎心理学」にみな魅力を感じているのが不思議です。
16. 講師の質もよい。講習会の運営に、情熱をもって行っていると感じている。

■受講生について

17. 可能であれば、受講後教員になる予定、あるいはすでに教員として働いているが講習会を受講していない人に限定する方がよいのではないか。
18. 評価が難しいと思いますが、能力的に難しいと思われる方への対応（対応を評価する方法）が本当は必要だと思います。
19. 教員をめざす人、管理者をめざす人、介護をより深めたい人など受講目的がひろがっている。人材育成に役立つような幅広い、教育内容も必要であろう。当校は入学試験、各科目の評価をしている。介養協は是非参考にしていきたい。資格取得に一年間かけている。同時に、「介護実習指導者」の養成もていねいにやっている。私も、同科目を担当している。
20. 質の高い、より良い教員を育てることが、学生教育に影響すると思います。最近の受講生の質から、ほど遠く感じます。よりよくするためのアイデアが思いつきません。
21. 教員講習会は必要なものだと考えます。理由は、教育の質の担保、教育内容の充実、そして、教員同志の横のつながりです。その成果は大きいと思います。講習会は初期の頃に受講しましたが、今も役立つことばかりです。一方、その役割は、受講者の変化により、少し変わってきているのではないのでしょうか？初期は新カリキュラムに対応した教育の統一化であったり、すでに教員だったベテラン等、キャリアのある先生方が受講されていたのが印象的でした。しかし、ここ数年は、現場の介護福祉士や看護師の受講が増えてきており、教育に対する理解や姿勢も大きく変わったように感じます。今日のアンケートを通して、より意味のある、より質の高い講習会になることを期待しています。よろしくお願いします。

■体制について

22. やはりどの科目の教員も最初にあつまって、どういう介護教員を養成するか、したいか、あと、事務局の話をきくとか、そういう体制をととのえてほしい。意見交換の場がほしい。自分の科目を教えっぱなしの状態のような感じ。それで本当にいいのかもわからないので。よろしくお願いします。
23. 講習会講師担当者が、年に一度会したFDがあればよいと思います。介護福祉士会とともに連携して検討されてはどうでしょうか。認定介護福祉士も活用できると思います。介養協の全国教職員研修を経営と教員に分けて教員向きを土日に東京でFDとして別に開くとよいと考えます。
24. 大変な事務量であるから、人員の手当（財政面を含めて）が必要であると思料します。
25. 受講生の立場となって考え直してほしい（体制）。
26. 介護福祉士養成教育を担う次世代の介護教員を養成する場として、本講習会を考えた際、その講習会を担う次世代の講習会教員の養成、ネットワーク化が大切と思われる。とりわけ、中軸を担う教員と全体をコーディネート（哲学、理念を持って）する先生の役割、つながりを可能とした質の高い教育を持続可能なかたちで、次世代にいかに関承し、発展させることができるのか、是非検討していきたい。

■テキストの必要性

27. 講習会全体に、入門的なテキストが必要だと考えています。
28. 介護の職場で日々多様な方のお世話をしながら、管理職や上司としての苦労等、学生から聞く中で、私自身も他界した両親がお世話になった老人施設や病院、地域のスタッフの方々のことを思い出し、いずれは自分もお世話になる領域の人材育成に少しでも役立てたらとの思いで、学生に接しております（わずかに15時間ですが）。近年、介護領域のニーズが高まる中で、労働環境等、物議をかもしもつことも多いため、教員となる覚悟を持って学ぶには、組織的な支援や連携体制が充分でないと、とても不安なのではないかと感じております。巡回によるSVシステムがあるのでしょうか。私の

授業の方針は、心理学やカウンセリングの伝達については、質を下げず、多様な情報提供に努めるということで、学生には話しております。しかし、現状の1年間の15時間で、どれだけのことが学生に残っているのか、役立つ内容になっているのかは心配でもあります（新しい知識を盛り込む努力はしているつもりではありますが）。学生数の減少も気がかりですが、現状のカリキュラムで、他の大学の実践センター等で使用しているテキストなど、ある程度、共通した内容の物（テキスト）があれば有難いと感じます。

■フォローアップの必要性

29. 教員講習会をすでに受講した教員に対して、定期的にフォローアップ研修のような機会を設ける。

30. ごく一部の授業科目しか担当していないので、全体的なことはわかりませんが、今後、介護福祉士の養成や養成校のあり方も変化していかなければならないと思います。月並みな言い方になりますが、資質が高く、誇りをもって教壇に立つ介護教員の育成と、喜びをもって介護職に就き活躍する人材の育成がさらに求められていくことと思います。人間育成の観点を大切に介護教員の養成・育成をしていただければと思います。また、その後の教員のリカレント教育も、学校教育の教員同様、考えていく必要があると思います。

■その他

31. 平成14年に発足した折には、講習会講師の要件が示されていましたが、現在、様々な団体で当該講習会が実施され、内容も講師も様々な状況となっているようです。介護福祉士の専門性や独自性が社会に認識されるようになるには、どのように学生さんを指導していくかが鍵となります。教員が、介護福祉士の専門性と独自性を十分理解できず、専門性はないかもと思う時には、学生さんは介護福祉士としての誇りがもてないように思われます。介護福祉学の学問上の専門性と、介護福祉士のもつ職業上の専門性とを区別して考えたことのない教員も、講習会では多く見かけます。生活支援技術の指導にあたり、科学的根拠を示して実践指導にあたる教員の姿に、学生さんは介護福祉士を目指してよかったと思うでしょう。介護福祉士の専門性と独自性を意識して現場で見つけ、しかし、構築していく力が身に付くよう、学生さんを指導することが、とても大切だと考えます。専門性や独自性は介護従事者自らが発見し創生していかなばなりません。従って、教員は、習ったことや経験したことを指導するだけでなく、根拠が示せるようになることが求められます。教壇に立つためには、これまで学習してこなかった専門領域の学問を学ぶことが求められます。北欧福祉先進国では教員養成の大学が設置されています。日本では、現在のところ、介護教員講習会がその役割を担うように思われます。介護教員講習会は、単なる介護教員になるためにガイダンス的な位置づけではないように考え、私は講師を務めて参りました。今一度、介護教員講習会の意義と目的を話し合う時期であるように思います。

32. 担当科目については最善を尽くして講義にあたっていますが、カリキュラム等の全体像は掴めていませんでした。社会福祉学のプロパーではないので、その点については理解も難しいことでしょうし、不要だったのかもしれないとは思っています。ベテラン教員と初学者の同時受講については、あまり積極的な意義を見出せません。コスト減のためにも、教歴に応じて履修免除があってもよいのではないかと思います。費用面についても、減免措置等があるほうがよいように思います（特に遠方の方、被災地からの受講者に対しては、あまりに負担が大きいのではないかと常々思っています）。

8 介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査 調査票

介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査

- 本調査票は、○●○○○○○○○○で平成28年度又は29年度に講師を担当されている先生が対象です。

◆最初に基本的事項等についてお伺いいたします。

問1. あなたご自身について教えてください。(1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性
年齢	1. 20歳代 2. 30歳代	3. 40歳代 4. 50歳代
担当の年度	1. 平成28年度のみ	2. 平成29年度のみ 3. どちらも担当

問2. あなたの現在の職名をお教えください。(1つに○)

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. 助手
6. その他 ()

問3. あなた自身は、介護教員講習会を受講しましたか。(1つに○)

1. 受講した	2. 受講していない	3. その他 ()
---------	------------	------------

問4. (公社) 日本介護福祉士養成施設協会が作成した「介護教員講習会における科目の教育内容（専門基礎分野・専門分野）に関する講義内容※」（平成21年12月）を知っていますか。（1つに○）

※参考までに同資料を添付しています。

1. 講習会全体（担当科目及び担当科目以外）について、内容を理解している
2. 担当科目については、内容を理解している
3. 内容は詳しくわからないが、存在は知っている
4. その他（ ）
5. 知らない

1

介護教員講習会の見直しに向けた「介護教員講習会講師」調査ご協力をお願い

現在、日本介護福祉士養成施設協会（以下、「協会」という。）では、厚生労働省の平成30年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金（社会福祉推進事業分）の交付を受け、「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教習方法等に関する調査研究事業」を実施しております。

この調査研究事業は、第13回社会保険審議会福祉部会福祉人材確保対策専門委員会にて報告された「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」において今後取り組む事項として示された意見をふまえて、新しいカリキュラムを効果的に実施し、介護福祉士養成教育の質の向上を図ることを目的として実施しております。

本アンケート調査は、介護教員講習会（専任教員課程）の講師経験者の方へ、教授内容や受講者層の変化に伴う講習会の実態と課題、教授内容や方法等の工夫についてお伺いするものです。

なお、ご回答いただいた内容は、本調査研究事業の基礎資料として利用させていただきます。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう
しくお願い申し上げます。

平成

【211c】調査問

▼本調査の対象：平成 28 年度または 29 年度介護教員講習会（専任教員課程）において、以下の科目をご担当された方を対象

- 基礎分野●専門基礎分野「教育学」「教育方法」「教育心理」「教育評価」
- 専門分野「介護福祉学」「介護教育方法」「学生指導・カウンセリング」「実習指導方法」「介護過程の展開方法」「コミュニケーション技術」「研究方法」

▶返送方法：同封の返信用封筒によりご郵送ください。

▼返送期限：平成30年10月20日（土）までに、ご投函ください。

▼結果の公表：本調査の結果は、本調査研究事業報告書により公表されます。

▼本調査をお願いするにあたり、以下の事項を遵守いたします

①回答者は本調査に回答するかどうかをご自身で決めることができます。

②回答者のプライバシーを守ります。

③得られたデータは本研究の目的のみに使用します。

④調査票及びデータは厳重に保管・管理いたします。

【ご不明な点があれば、下記までお問い合わせください】

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 事務局 (担当 渡辺)
(住所) 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-6-14 三久ビル7階
(電話) 03-5512-4745 (e-mail) watanabe@kaiyokyo.net

問5. 本調査票が送られた主催者において、平成28年度または平成29年度または29年度にあなたが担当した科目名、担当科目のこれまでの★合計担当年数をお教えください。

★合計担当年数:平成28年度以前を含めた合計とし、他主催者（他校）で担当していたことがある場合はそれも加算してください。ただし、担当講師名として名前が明記されている場合をカウントの対象とし、他の教員の手伝い、ゲスト講師等はカウントの対象となりません。

※基礎分野：社会福祉学、生活学、人間関係論、心理学、哲学、倫理学、法学のいずれかを記載

記入例

平成28年度または29年度にあなたが担当した科目名に○		担当していた年度に○		★これまでの担当年数合計
○	1. 教育学	28年度	29年度	(5)年
	1. ※基礎分野 ()	28年度	29年度	()年
	2. 教育学	28年度	29年度	()年
	3. 教育方法	28年度	29年度	()年
	4. 教育心理	28年度	29年度	()年
	5. 教育評価	28年度	29年度	()年
	6. 介護福祉学	28年度	29年度	()年
	7. 介護教育方法	28年度	29年度	()年
	8. 学生指導・カウンセリング	28年度	29年度	()年
	9. 実習指導方法	28年度	29年度	()年
	10. 介護過程の展開方法	28年度	29年度	()年
	11. コミュニケーション技術	28年度	29年度	()年
	12. 研究方法	28年度	29年度	()年

【講習会の目的・目標等の理解・共有】

問6. 講習会全体の目的・目標等の理解・共有、担当科目の位置づけや目標の明確化などが図られるような運営・マネジメントの体制がありましたか。(1つに○)

1. 十分

2. ある程度十分

3. やや不十分

4. 不十分

問7. 担当する科目の目標・教育内容・留意点等の理解に基づいて、担当科目の講義・演習が展開できていましたか。(1つに○)

1. 十分

2. ある程度十分

3. やや不十分

4. 不十分

【他科目（他教員）との連携】

問8. 他科目（他教員）の介護教員講習会のシラバスを見ることができますか。(1つに○)

1. ある

2. ない

問9. 他科目（他教員）の介護教員講習会を聴講したことがありますか。(1つに○)

1. ある

2. ない

問10. 担当科目は、他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習となっていましたか。(1つに○)

1. 十分

2. ある程度十分

3. やや不十分

4. 不十分

問11. 他科目（他教員）との関わりを意識した講義・演習とするための課題、留意点、工夫点などをお聞かせください。

問12. 1科目を複数の教員で担当する講義・演習において、打ち合わせや連絡調整は十分にできていますか。(1つに○)

1. 十分

2. ある程度十分

3. やや不十分

4. 不十分

5. 複数教員の授業は担当していない

問13. 複数の教員で担当する講義・演習に関する講義・演習に関する課題、留意点、工夫点、今後のあり方などについてご意見をお聞かせください。

81

3

2

【授業評価の体制】

問 14. 授業評価（受講者アンケート含む）は教員にフィードバックされていましたか。（1つに○）

1. されていた

2. されていなかった → 問 15へ

(1) 授業評価（受講者アンケート含む）がフィードバックされていた（いる）と回答した方に伺います。
授業評価の結果は、講義・演習の展開に反映できるものですか。（1つに○）

1. 十分

2. ある程度十分

3. やや不十分

4. 不十分

(2) 授業評価（受講者アンケート含む）がフィードバックされていた（いる）と回答した方に伺います。
授業評価の結果を講義・演習の展開に反映するために、検証・議論・相談などをする場（機会）はありましたか。（1つに○）

1. あった

2. なかった

問 15. 授業評価（受講者アンケート含む）のフィードバックや結果反映に関する課題、留意点、工夫点などをお聞かせください。

4

【担当科目について】

問 16. 担当科目で使用するテキストや資料について、意識していること、工夫していることをお聞かせください。

担当科目名

担当科目名

問 17. 担当科目における教授方法や講義・演習の進め方等において、意識していること、工夫していることをお聞かせください。

担当科目名

担当科目名

5

82

問 18. 担当科目において、困ったことや対応に苦慮することがあればお聞かせください。

担当科目名

担当科目名

問 19. 上記以外で、担当科目の開講にあたって、特に意識していること、工夫していることをお聞かせください。

6

【介護教員講習会をよりよくするために】

問 20. 現在の介護教員講習会は、受講生のニーズや特性に応じた内容や教授方法になっていると思いますか。(1つに○)

1. とても思う

2. 思う

3. あまり思わない

4. 思わない

問 21. 「あまり思わない・思わない」と考える理由や、今後の介護教員講習会のあり方についてご意見を聞かせください。

問 22. 以下について、それぞれのように感じていますか。

(1) 全体の時間数 (300 時間) について

1. 現状でよい

2. どちらでもない

3. 変更が必要

■ どのように変更したらよいか、変更が必要なら理由をお聞かせください。

7

執筆協力者

上原 千寿子（広島国際大学）
坂本 毅啓（北九州市立大学）
志水 幸（北海道医療大学）
白井 孝子（東京福祉専門学校）
李木 明德（広島文教女子大学）
高橋 泰道（島根県立大学）
田中 崇教（広島文教女子大学）
峯尾 武巳（特定非営利活動法人 介護の会まつなみ）
八木 裕子（東洋大学）

（50 音順、敬称略）

平成 3 0 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業

介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した
介護教員講習会の教育内容等について

発行 平成 31（2019）年 3 月
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
東京都千代田区霞が関 3-6-14 三久ビル 7 階
TEL:03-5512-4745 / FAX:03-5512-4746
